

令和 2 年度

北海道立旭川美術館

ANNUAL REPORT OF HOKKAIDO ASAHIKAWA MUSEUM OF ART

April, 2020 – March, 2021

年報

目次

1 活動方針	1
2 令和2年度の活動概要	2
3 事業日誌	3
4 展覧会事業	
特別展・所蔵品展一覧	4
4-1 特別展	
美術館に行こう！ディック・ブルーナに学ぶモダン・アートの楽しみ方	5
令和2年度国立美術館巡回展・京都国立近代美術館所蔵品展 京の美術－洋画、日本画、工芸	6
北の水彩	13
「木」と「あそび」美術館	22
4-2 所蔵品展	
Amazing Woodcrafts 椅子と箱の世界	34
旭川ゆかりのアーティスト	34
旭美・この一点－黒田辰秋《神代櫛彫紋飾棚》	36
荒井善則展 無意識が世界を版にする	36
4-2 貸館	
第75回記念新ロマン派会員・会友展	45
5 教育普及事業	
(1) ワークショップ等	46
(2) 連携事業	47
(3) ボランティア活動	48
(4) 協力事業	48
6 美術作品の収集	49
作品目録	51
7 美術作品の修復・貸出	54
(1) 美術作品の修復	54
(2) 美術作品の貸出	54
8 資料・情報	55
9 利用者数一覧等	
(1) 令和2年度観覧者数一覧	58
(2) 令和2年度教育普及事業実施状況・事業利用者数一覧	59
(3) 令和2年度予算・名簿	64
(4) 沿革	65
(5) 建築設備概要	66
(6) 利用案内	67

1 活動方針

道北地域における文化活動の拠点として、幅広く美術文化を紹介・普及することにより、地域文化に潤いと深みをもたらし、文化創造への活力を高める。

A すぐれた作品の収集と保管

旭川を中心とした道北地域にゆかりのあるすぐれた作品及び木を素材とした造形作品を系統的に収集、保存する。

B 多彩で特色ある展示活動の充実

当館の所蔵品及び国内外のすぐれた作品をさまざまな角度から紹介する展覧会を企画・実施する。また、他の道立美術館との連携のもとに、その所蔵品を紹介する。

C 豊かな人間性を育む学習の場と美術情報の提供

講演会、講座、解説、教員のための鑑賞研修、子ども向け事業等の教育普及活動及び美術に関する情報提供等の事業を推進し、地域の美術文化の振興を図る。

D 活動の基礎となる調査研究の推進

主として「道北の美術」及び「木の造形作品」についての調査研究を行う。また、美術館活動についての研究を行う。

E 地域文化の振興

地域の他の美術館、博物館等との連携を図り、地域文化の活性化に努める。

F 良好な滞在環境の提供

美術鑑賞にふさわしく落ち着いた文化的環境を維持・提供する。

2 令和2年度の活動概要

■新型コロナウイルス感染症の1年

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症に翻弄された1年であり、全国的に美術館の臨時休館や展覧会の中止・延期が相次いだ。当館では、令和2年度最初の展覧会である「第75回記念 新ロマン派会員・会友展」（4月7日～12日 貸館）が、展示の際に密を避けることは不可避であることなどから、主催者が会期直前に中止の決断を下した。さらに国の緊急事態宣言の発令を受けて、4月25日に開幕予定だった「美術館に行こう！ディック・ブルーナに学ぶモダン・アートの楽しみ方」展の中止が決まり、年度最初の特別展は、7月11日開幕の「京の美術」展となった。京都から作品を輸送する本展は、開催自体が危ぶまれた時期を経て予定通り開催されたが、展覧会チラシの裏面には当初計画されていた講演会など関連事業のかわりに「新型コロナ感染拡大防止についてお願い」を掲載することとなった。9月以降の展覧会は、感染症対策を徹底した上で、従来通りの会期で開催された。

■コロナ下での美術館活動

新型コロナウイルス感染症への対応のため、上半期、美術館の年間スケジュールは変則的なものになった。メインである第1展示室の「新ロマン派会員・会友展」「美術館に行こう！」展が中止となる一方で、本来4月7日から6月28日の会期だった第2展示室の「Amazing Woodcrafts 椅子と箱の世界」展は、道の方針により前倒しで4月4日が初日となった。しかし、4月25日から再び休館となり、再開したのは5月26日。自治体によっても対応がわかれ、住民には地元施設の開館状況がわかりにくい状態だった。再開以降、当館は休館することなく展覧会の開催を継続できたが、オープニングや関連事業については、中止や延期、縮小が続いた。都市間の往来が自粛される中、各地の美術館でオンラインによって展覧会内容を伝える試みが増加し、道立美術館・博物館等では「北海道リモート・ミュージアム」をたちあげ、各施設の展覧会を紹介するようになった。当館では「Amazing Woodcrafts 椅子と箱の世界」展、「京の美術」展、「荒井善則展」の動画を作成して公開した。オンラインで配信は、間接的にはあるが、来館できない人々の展覧会鑑賞を可能にする。一方で、美術館の従来の来館者の多くは、オンラインになじみが薄い。関連事業に関しては、密を避けるため、参加人数をそれまでの半分程度に制限して実施したが、対面での事業参加者からの喜びの声は、「現実空間」での体験の貴重さを再認識させるものであった。

■続く模索

コロナ下で再開した美術館が直面した課題は、感染症対策と美術館活動をいかに共存させるかであり、展覧会開催そのものよりも、むしろ対面接触をともなう教育普及事業において大きな対応の変化をせまられた。緊急事態宣言が解除されて美術館が開館しても、多くの人々はそう簡単には都市を往来せず外出も自粛し、展示室を入场制限するような事態にはならなかった。当館の教育普及事業は一部をのぞいて当日自由参加で実施していたが、ほとんどを事前募集制にして人数制限をとって実施するようになったのが令和2年度であった。「京の美術」展は、当初、関連事業を一切予定していなかったが、オープンから1か月後の8月に、感染状況を考慮しつつ、学芸員による解説を自由参加で実施した。ただし参加者は、定員の30名を大きく下回った。1月の子ども向けワークショップでは、予定していた講師が旭川市への出張を許可されず、講師不在のため、急遽、当館職員が講師をつとめて対応する事態も生じた。「荒井善則展」初日1月9日に予定していた作家によるトークは、3月に延期して事前募集制で実施した。人数制限と事前募集制には、よい側面もあった。事前募集制によって人数把握がしやすくなったことで、当日になって満席で聴講ができない来館者が出てしまうといった問題がなくなると同時に、広報展開も募集状況を見ながら対応可能になったからである。また、10月の「欠けた器を直す金継ぎ講座」は、参加者へのきめ細やかな指導が必要でかつ時間がかかり、定員5名による3日間の連続講座だった。本事業は、参加者から非常に好評だったが、これまでこうした参加人数が極端に少なく日数が必要なワークショップの実施は躊躇されており、参加者数を増やすだけではない教育普及事業の多様な方向性を見出すことにつながった。

3 事業日誌

月日	事業内容
4.7(火)～4.12(日)	「第75回記念新ロマン派会員・会友展」(第1展示室) ※主催者の要請により開催中止
4.4(土)～6.28(日)	「Amazing Woodcrafts一椅子と箱の世界」展(第2展示室) ※北海道独自の緊急事態宣言の解除により、4.7からの予定を繰上げて開会 ※4.25～5.25は国による緊急事態宣言の発令により休館、休会
4.25(土)～6.28(日)	「美術館に行こう！ディック・ブルーナに学ぶモダン・アートの楽しみ方」(第1展示室) ※国による緊急事態宣言の発令により開催中止
7.11(土)～8.30(日)	「令和2年度国立美術館巡回展・京都国立近代美術館所蔵品展 京の美術－洋画、日本画、工芸」展(第1展示室)
7.11(土)～8.30(日)	「旭川ゆかりのアーティスト」展(第2展示室)
8.1(土)	「旭川ゆかりのアーティスト」展 アーティスト・トーク(第2展示室)
8.2(日)	「旭川ゆかりのアーティスト」展 アーティスト・トーク(第2展示室)
8.7(金)～8.16(日)	夏休み工作アトリエ(ロビー)
8.8(土)	「京の美術－洋画、日本画、工芸」展 30分でわかる！見どころ解説(講堂)
8.15(土)	「旭川ゆかりのアーティスト」展 アーティスト・トーク(第2展示室)
8.16(日)	「旭川ゆかりのアーティスト」展 アーティスト・トーク(第2展示室)
8.22(土)	「京の美術－洋画、日本画、工芸」展 30分でわかる！見どころ解説(講堂)
9.12(土)～11.1(日)	「北の水彩」展(第1展示室)
9.12(土)～11.1(日)	「旭美・この一点一黒田辰秋《神代樺彫紋飾棚》」展(第2展示室)
9.12(土)	美術講演会「近代の水彩画と北海道」(講堂)
9.19(土)	「北の水彩」展 アーティスト・トーク(第1展示室)
9.20(日)	上映会「石垣渉 水彩画 作品ができるまで」(講堂)
9.26(土)	「北の水彩」展 教員のための鑑賞研修(講堂)
9.26(土)	「北の水彩」展 アーティスト・トーク(第1展示室)
10.4(日)	こども工作ワークショップ2020「カラフル魔法の折り染め飾り」(講堂)
10.10(土)	講座「佐藤進と北海道の水彩画」(講堂)
10.14(水),21(水),28(水)	北海道立旭川美術館の実技講座「欠けた器を直す金継ぎ講座」(講堂)
10.25(日)	「北の水彩」展 ギャラリー・ツアー(第1展示室)
1.9(土)	「「木」と「あそび」美術館」展(第1展示室)
1.9(土)	「荒井善則展 無意識が世界を版にする」(第2展示室)
1.23(土)	「「木」と「あそび」美術館」展 教員のための鑑賞研修(講堂)
1.23(土)	「「木」と「あそび」美術館」展 北海道教育大学旭川校連携ギャラリー・トーク(第1展示室)
1.30(土),31(日)	ウッドイ★工作アトリエ 「親子で木のおもちゃづくり」(講堂、第1展示室、第2展示室)
2.6(土)	「荒井善則展 無意識が世界を版にする」 アーティスト・トーク(第2展示室)
2.12(金)	「「木」と「あそび」美術館」展 30分でめぐる！ギャラリーツアー(第1展示室)
2.13(土)	「「木」と「あそび」美術館」展 北海道教育大学旭川校連携ギャラリー・トーク(第1展示室)
2.27(土)	北海道旭川農業高等学校の出張工作教室(第1展示室、講堂)
3.13(土)	「「木」と「あそび」美術館」展 30分でめぐる！ギャラリーツアー(第1展示室)
3.14(日)	「「木」と「あそび」美術館」展 30分でめぐる！ギャラリーツアー(第1展示室)
3.20(土)	「「木」と「あそび」美術館」展 アーティスト・トーク(第1展示室)
3.27(土)	「荒井善則展 無意識が世界を版にする」 アーティスト・トーク(第2展示室)

4 展覧会事業

■特別展・所蔵品展等一覧

	展覧会名	開催期間	開催日数	主催	会場
特別展	中止 美術館に行こう！ディック・ブルーナ に学ぶモダン・アートの楽しみ方	4月4日(土) ～6月28日(日)	0日間	北海道立旭川美術館 北海道新聞社 「美術館に行こう！ 展」実行委員会	第1展示室
	令和2年度国立美術館巡回展・京都国立近代美術館 所蔵品展 京の美術—洋画、日本画、工芸	7月11日(土) ～8月30日(日)	45日間	北海道立旭川美術館 北海道新聞社	第1展示室
	251 北の水彩	9月12日(土) ～11月1日(日)	44日間	北海道立旭川美術館 北海道新聞社	第1展示室
	252 「木」と「あそび」美術館	1月9日(土) ～3月31日(水)	70日間	北海道立旭川美術館 北海道新聞社	第1展示室

所蔵品展	85 Amazing Woodcrafts — 椅子と箱の世界	4月4日(土) ～6月28日(日) 休会：4月25日 ～5月25日	38日間	北海道立旭川美術館	第2展示室
	86 旭川ゆかりのアーティスト	7月11日(土) ～8月30日(日)	45日間	北海道立旭川美術館	第2展示室
	87 旭美・この一点—黒田辰秋 《神代櫨彫文飾棚》	9月12日(土) ～11月1日(日)	44日間	北海道立旭川美術館	第2展示室
	88 荒井善則展 無意識が世界を版にする	1月9日(土) ～3月31日(水)	70日間	北海道立旭川美術館	第2展示室

貸館	中止 第75回記念新ロマン派会員・会友 展	4月7日(火) ～4月12日(日)	0日間	新ロマン派美術協会	第1展示室
----	--------------------------	----------------------	-----	-----------	-------

4-1 特別展

美術館に行こう！

ディック・ブルーナに学ぶモダン・アートの楽しみ方

Let's go to museum!

会 期：4月25日(土)～6月28日(日)

主 催：北海道立旭川美術館、北海道新聞社、「美術館に行こう！展」実行委員会

特別協力：ディック・ブルーナ・ジャパン/Mercis bv

協力：クツワ、福音館書展

企画協力：キュレーターズ

後 援：旭川市、旭川市教育員会

本展は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に起因する国による緊急事態宣言の発令を受けて、北海道立旭川美術館および北海道新聞社で構成される「美術館に行こう！展」実行委員会における協議により、開催中止が決定された。道内の公立美術館においては、新型コロナウイルス感染症の影響による展覧会中止の初の事例となった。

令和2年度国立美術館巡回展・京都国立近代美術館所蔵品展

京の美術—洋画、日本画、工芸

Masterpieces from the National Museum of Modern Art, Kyoto : Oil Paintings, Japanese-style Paintings and Crafts by Kyoto Artists

会 期 : 7月11日(土)~8月30日(日)

主 催 : 北海道立旭川美術館、京都国立近代美術館

共 催 : 北海道新聞旭川支社

国立美術館巡回展は、独立行政法人国立美術館の所蔵作品を効果的に活用し、地域での鑑賞機会の充実、および美術の普及をはかることを目的とした事業である。同事業の一環である本展では、国内有数の規模を誇る京都国立近代美術館のコレクションから、京都ゆかりの作家たちによる洋画、日本画、工芸の名品約80点を選びすぎり展観した。洋画は、京都の洋画教育において重要な役割を果たした浅井忠や鹿子木孟郎らと、梅原龍三郎や安井曾太郎らその弟子たちの油彩画を中心に、牧野克次や都鳥英喜らの水彩画を加えて紹介。日本画は、森寛齋や菊池芳文らの先駆者をはじめ、京都の日本画の中心的存在であった竹内栖鳳、国画創作協会の土田麦僊、美人画の一時代を築いた上村松園、戦後の長きにわたって活躍する福田平八郎や徳岡神泉らの作品、また工芸は黒田辰秋らの木工とともに、民藝運動の富本憲吉や河井寛次郎、独自の美を追究した北大路魯山人、清水卯一や十五代樂吉左衛門らの現代陶芸の作品までを紹介し、京都において多様に展開した美術の魅力に迫った。

展覧会の内容は好評を得たが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で開会式や記念講演等の関連事業が中止となり、来館者数も3,726名と例年同時期と比較すると半数以下にとどまった。

■関連事業

[30分でわかる!見どころ解説]

講 師 : 門間仁史 (主任学芸員)

会 場 : 講堂

(自由参加、聴講無料)



8月8日(土)午後2時~(約30分)

参加人数 : 17人



8月22日(土)午後2時~(約30分)

参加人数 : 12人

[オリエンテーション]

講 師：主任学芸員

会 場：講堂

実施回数：1回

参加者数：9人

(希望団体対象の解説、予約制、無料)

■主な新聞記事等

北海道新聞 社告：7/3 取材記事：7/12 8/4 8/19 広告：7/5 7/7 7/7(夕) 7/8 7/14 7/14(夕) 7/19 7/20 7/21
7/21(夕) 7/26 7/28 7/28(夕) 7/29(夕) 7/30 7/31 8/5 8/8 8/11 8/14 8/14(夕) 8/15 8/18 8/20(夕)
8/21 8/24 8/24(夕) 8/27

北海道通信 7/16 7/31

■動画配信

北海道リモート・ミュージアム（「Hokkai・Do・画」）

「京の美術－洋画、日本画、工芸」

公開日：8月11日

再生時間：3分19秒

視聴回数：827回（R4.3/6現在）

■広報印刷物

ポスター：B2縦、OKトップコートマットN 135kg、片面カラー、1,450枚

チラシ：A4縦、OKトップコートマットN 110kg、両面カラー、20,000枚

観覧券：(招待券)縦140×横65mm、(一般券)縦140×横60mm、OKトップコートマットN90kg、片面カラー、13,800枚

パンフレット：A5縦、ミューマット菊判62.5kg、オフセット300線高精細印刷、オールカラー、中綴じ製本、4000部 ※高崎市タワー美術館、京都国立近代美術館と共同制作

デザイン：磯優子（文編）

製作：中西印刷株式会社

京の美術—洋画、日本画、工芸 出品目録

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)
洋画					
1	伊藤 快彦	厨の春	1895(明治28)頃	画布、油彩	32.0×43.0
2	櫻井 忠剛	銅器の花と布袋の置物	1900(明治33)頃	画布、油彩	87.0×84.0
3	浅井 忠	編みもの	1901(明治34)	画布、油彩	64.3×48.7
4	鹿子木 孟郎	書齋における平瀬介翁	1915(大正4)	画布、油彩	80.3×60.7
5	俣阪 松濤	蟲のね	1909(明治42)	画布、油彩	50.0×65.0
6	田中 善之助	窓	1911(明治44)	画布、油彩	71.5×53.0
7	四部 清五郎	巫女像	1912(明治45)	画布、油彩	80.1×63.6
8	因田 喜二郎	巫女	1915(大正4)	画布、油彩	129.0×145.0
9	霜鳥 之彦	田字架前の静物	1923(大正12)	画布、油彩	63.5×52.5
10	黒田 重太郎	窓林	1924(大正13)	画布、油彩	72.0×59.6
11	都鳥 英喜	窓	1925(大正14)	画布、油彩	98.0×78.4
12	里見 勝蔵	溪谷の春	1924(大正13)	画布、油彩	72.0×104.0
13	川端 弥之助	京都駅	1929(昭和4)	画布、油彩	65.0×99.8
14	向井 潤吉	K氏の像	1920(大正9)	画布、油彩	65.0×52.8
15	津田 青楓	類杖の女	1930(昭和5)	画布、油彩	52.0×44.4
16	梅原 龍三郎	坐裸婦	1914(大正3)	画布、油彩	97.0×73.5
17	安井 曾太郎	ポーズせるモデル	1931(昭和6)	画布、油彩	81.0×65.3
18	須田 国太郎	城南の春	1933(昭和8)	画布、油彩	60.0×90.5
19	須田 国太郎	修理師	1938(昭和13)	画布、油彩	110.5×161.2
20	伊藤 快彦	柳の馬場より平安神宮を望む	1895(明治28)頃	紙、水彩	24.0×32.7
21	西川 純	聖護院浅井先生宅の裏	1903(明治36)	紙、鉛筆、淡彩	27.0×38.0
22	鞍野 克次	窓屋	1904(明治37)頃	紙、水彩	31.3×41.4
23	鞍野 克次	四坂の塔	1904(明治37)頃	紙、水彩	45.2×29.6
24	梅原 龍三郎	日十三間堂	1906(明治39)頃	紙、水彩	32.4×51.0
25	加藤 源之助	四坂神社	1906(明治39)	紙、水彩	39.4×31.5
26	田中 善之助	日十三間堂	1907(明治40)	紙、水彩	26.1×39.4
27	都鳥 英喜	真如堂裏	1906(明治39)	紙、水彩	36.5×26.5
28	都鳥 英喜	鴨川	1907(明治40)	紙、水彩	28.8×38.3
29	新井 謹也	朝熊山(伊勢山田)	1909(明治42)	紙、水彩	27.7×37.0
30	田種 掃雲	坂道	明治末	紙、水彩	34.0×25.3

日本画

31	森 寛斎	花鳥図	1891(明治24)	絹本着色	142.4×58.5
32	竹内 栖鳳	羅馬古城図	1901(明治34)	絹本墨画淡彩	126.8×51.5
33	菊池 芳文	桜花群鴉図	1903(明治39)	絹本着色	157.5×84.0
34	都路 華香	良夜	1912(明治45)	紙本墨画	178.3×77.7
35	冨野 竹喬	郷土風景	1917(大正6)	絹本着色	175.0×170.0
36	冨野 竹喬	村道(北国の田舎道)	1923(大正12)	紙本着色	117.4×112.0
37	田田 麦僊	罰	1908(明治41)	絹本着色	154.3×198.8
38	田田 麦僊	巴里の女	1923(大正12)	画布、テンペラ	137.0×116.0
39	村上 華岳	春日耕牛図	1916(大正5)	絹本着色	127.0×42.4
40	村上 華岳	窓ばれの山	1934(昭和9)	紙本着色	44.1×62.9
41	榑原 紫峰	初秋孤鹿之図	1928(昭和3)頃	絹本着色	155.3×56.8
42	伊藤 草白	島	1918(大正7)	絹本着色	109.7×139.0
43	富岡 鉄斎	煙波漁隠図	1913(大正2)	絹本着色	139.8×41.8
44	冨田 溪仙	清水秋酣図	1932(昭和7)頃	絹本着色	134.5×42.1
45	冨田 溪仙	鶴船	1912(明治45)	紙本墨画	199.0×77.0
46	竹内 栖鳳	秘興	1927(昭和2)	絹本着色	172.0×70.7
47	西村 五雲	潑光	1930(昭和5)	絹本着色	66.8×86.7
48	菊池 契月	朝爽	1937(昭和12)	絹本着色	149.8×72.1
49	田村 松園	花のにぎわい	1907(明治40)	絹本着色	153.8×50.6
50	田村 松園	舞仕度	1914(大正3)	絹本着色	170.0×202.0
51	田斐庄 楠音	幻覚	1920(大正9)	絹本着色	183.5×105.0
52	壺本 印象	新聞	1950(昭和25)	紙本着色	130.0×160.0
53	冨染 鉄	廢船	1969(昭和44)頃	紙本着色	47.5×101.0
54	福田 平八郎	花菖蒲	1934(昭和9)	絹本着色	145.0×82.8
55	福田 平八郎	花の習作	1961(昭和36)	紙本着色	122.6×100.0
56	徳岡 神泉	富士	1965(昭和40)頃	紙本着色	162.0×110.0
57	徳岡 神泉	桔葉	1958(昭和33)	紙本着色	145.0×114.5
58	冨江 波光	摘草	1928(昭和3)	絹本着色	161.0×180.0
59	梶原 緋佐子	残波岬	1978(昭和53)	紙本着色	163.5×90.5
60	冨田 多津	想	1988(昭和63)	紙本着色	150.0×110.0
61	冨口 華楊	日向	1949(昭和24)	紙本着色	130.0×116.5

62	猪原 大華	鯉	1977(昭和52)	紙本着色	150.4×131.0
63	酒田 遙邨	朧夜	1982(昭和57)	紙本着色	164.0×114.0

工芸

64	石黒 宗麿	壺「晩秋」	1955(昭和30)頃	陶土、釉薬	22.5×21.2×21.0
65	清水 卯一	蓬萊無茶碗	2002(平成14)	陶土、釉薬	9.4×14.2
66	田五代樂吉左衛門	燵貫黒茶碗 雲雷後	1999(平成11)	陶土、釉薬	9.4×12.6
67	耻大路 魯山人	色絵金彩椿文鉢	1955(昭和30)	陶土、釉薬	20.0×36.0
68	回井 寛次郎	辰砂抜絵鉢	1941(昭和16)	陶土、釉薬	9.0×39.0
69	近藤 悠三	葡萄棚染付壺	1964(昭和39)	磁土、釉薬	32.0×39.0
70	富本 憲吉	色絵金彩羊歯模様大飾壺	1960(昭和35)	磁土、釉薬	23.0×27.0
71	五代清水六兵衛 (六和)	燵漫水指	1934(昭和9)	陶土、釉薬	18.0×19.0×14.5
72	因代清水六兵衛	白彩藍洩花瓶	1963(昭和38)	陶土、釉薬	28.0×31.0
73	樋部 彌弌	彩斑「清晨」花瓶	1983(昭和58)	磁土、釉薬	23.5×25.8
74	富田 幸七 初代木村表斎	沼取川蒔絵硯箱	明治-大正	木、蒔絵	2.4×17.3×15.0
75	杉林 古香 図案：浅井 忠	蒔絵用箋筒「静々」	1907(明治40)	木、陶、貝、笥	5.2×23.0×29.5
76	富野 松山	墨鼠模様手箱	1940(昭和15)	木、漆、蒔絵	16.5×24.5×34.7
77	黒田 辰秋	靱漆梅花盆	1966(昭和41)	麻布、漆	3.0×26.7×26.7
78	鈴木雅也 (三代鈴木表朔)	森の函	1977(昭和52)	アクリル、漆	28.0×28.5×28.5
79	服部 峻昇	耀貝飾筒「月の海」	1992(平成4)	漆、螺鈿、蒔絵	25.0×28.0×20.0

※作品はすべて京都国立近代美術館蔵

※寸法は絵画：縦×横、工芸：高×縦×横または高×径

京みやこの美術



土田麦僊《罰》1908年

洋画、日本画、工芸

Masterpieces from the National Museum of Modern Art, Kyoto :
Oil Paintings, Japanese-style Paintings and Crafts by Kyoto Artists

令和2年

7月11日 | 土 |
8月30日 | 日 |

● 休館日

月曜日（ただし8月10日をのぞく）

● 開館時間

午前9時30分～午後5時
（ただし、入場は午後4時30分まで）

● 観覧料

一般 1000（800）円
高大生 600（400）円
小中生 300（200）円

- （ ）内は前売り、10名以上の団体料金。
- リピーター割引、旭川リンクコミュニティセンターによる割引料金等。
- 障害者手帳をお持ちの方等は無料。
- 本展の前売券は7月10日（金）まで当館で販売します。

主催 北海道立旭川美術館・京都国立近代美術館
共催 北海道新聞旭川支社

北海道立旭川美術館
Hokkaido Asahikawa Museum of Art

〒070-0044 旭川市常盤公園内 TEL. 0166-25-2577
<http://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/abj/top.htm>

@Asahikawa_Art





国立美術館巡回展は、独立行政法人国立美術館の所蔵作品を効果的に活用し、地域での鑑賞機会の充実、および美術の普及をはかることを目的とした事業です。本展では、国内有数の規模を誇る京都国立近代美術館のコレクションから、京都ゆかりの作家による洋画、日本画、工芸の名品約80点を選び、すぐり展観します。

洋画は初期に指導者的な役割を果たした浅井忠や鹿子木孟郎らから、里見勝蔵、須田国太郎ら独立美術協会の主要画家、梅原龍三郎や安井曾太郎ら近代日本の洋画を代表する画家たちの作品に加えて、牧野克次、都鳥英喜らの水彩の作品。日本画は森寛齋や菊池芳文らの先駆者をはじめ、京都の日本画の中心的存在であった竹内栖鳳、国画創作協会の土田麦僊、村上華岳、小野竹喬らとともに、美人画の一時代を築いた上村松園や甲斐庄楠音、戦後の長きにわたって活躍する福田平八郎、徳岡神泉、堂本印象らの作品。工芸は黒田辰秋らの木工と、民芸運動の富本憲吉、河井寛次郎、独自の美を追究した北大路魯山人、清水卯一や十五代樂吉左衛門らの現代陶芸の作品など、京都において花開いた近代美術の精華をご鑑賞ください。

- 上段作品右から
太田喜二郎 《少女》 1915年
都鳥英喜 《真如堂裏》 1906年
山口華穂 《日向》 1974年
上村松園 《舞支度》 1914年
- 下記作品
十五代樂吉左衛門
《焼貫黒茶碗・雲雷後》 1999年



第2展示室のご案内

旭川ゆかりのアーティスト

Contemporary Artists from Asahikawa

2020年7月11日(土)～8月30日(日)

休館日/月曜日(ただし8月10日をのぞく)

旭川で生まれ育った、あるいは現在旭川を拠点に活躍する作家の絵画や彫刻作品を紹介します。



あべ弘士《『エゾオオカミ物語』絵本原画》2008年 当館蔵



交通案内

徒歩) JR旭川駅から約20分。

バス) JR旭川駅北側の1条通の14番バス停【1条8丁目】から3・13・23・24・33・35番のバスに乗車。最寄りのバス停は【4条4丁目】(3・33・35番)、徒歩5分。または【8条西1丁目】(13・23・24番)、徒歩3分。また、バス停【常磐公園前】を経由するバスもご利用いただけます。バス停から徒歩7分。

タクシー) JR旭川駅から約10分。800円程度。

駐車場) Pマークの常磐公園駐車場(無料/午前9時～午後5時)をご利用いただけますが、台数に限りがあります。

北海道立旭川美術館

Hokkaido Asahikawa Museum of Art

〒070-0044 旭川市常磐公園内 @Asahikawa_Art
TEL. 0166-25-2577 FAX. 0166-25-2539
<http://www.dokyoji.pref.hokkaido.lg.jp/hk/abj/top.htm>



ご来館の皆様へ

新型コロナウイルス 感染防止についてお願い

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、美術館にご入館いただくお客様におかれましては、次のことにご協力くださいますようお願い申し上げます。



消毒用アルコールを
ご利用ください。



体調不良の方、過去2週間以内に発熱や感冒症状のあった方、過去2週間以内に感染拡大している地域や国に訪問した方は入場をお控えください。



館内ではマスクの
着用をお願いします。



混雑時には入場にお時間を
いただく場合がありますが、
ご了承ください。



館内スタッフはマスクを
着用させていただきますので
ご了承ください。



人と人との距離を
十分に取ってご利用ください。

北の水彩

Watercolors of Hokkaido

会 期：令和2年9月12日(土)～11月1日(日)

主 催：北海道立旭川美術館

共 催：北海道新聞旭川支社

水彩画は、作品の親しみやすさや画材の手軽さから広く普及し愛されてきた絵画である。明治30年代後半から全国的に流行し、北海道でもよく目にされるようになり、昭和初期には、中西利雄らの水彩画革新の運動により全国的に活気を帯びる。本展では、明治から現在活躍中の作家まで、104点によって水彩画の魅力を紹介した。

本展は、アートギャラリー北海道の一環として開催し、北海道立近代美術館と市立小樽美術館の作品を中心に、地元旭川市近郊や札幌で活躍する現役作家を加えた。また、旭川に長く在住した画家・佐藤進は、当館で回顧展も開催されている地元を代表する画家の一人だが、今回、当館で初めて水彩画展の中で紹介し、北海道水彩画壇においていかなる位置づけの作家だったかを展観する機会となった。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実施を見合わせた関連事業もいくつかあったが、地元作家や遺族によるギャラリー・トークを実施した際、美術館という場所で、作品を鑑賞すること、他者とふれあう機会をもてたことへの喜びの声を多く耳にし、美術館の使命を再認識した。会期中3,314人が来館した。

■関連事業

[美術講演会「近代の水彩画と北海道」]

9月12日(土) 午前10時30分～11時30分

講 師：新明英仁氏(市立小樽美術館館長)

会 場：講堂(聴講無料)

参加人数：15人

[アーティスト・トーク]

9月19日(土) 午後2時～3時

講 師：石垣渉氏(本展出品作家)

会 場：第1展示室(要観覧券)

参加人数：37人

9月26日(土) 午後2時～3時

講 師：高松秀人氏、宮西隆生氏(本展出品作家)

会 場：第1展示室（要観覧券）

参加人数：29人

〔上映会「石垣渉の水彩画作品ができるまで」〕

9月20日（日） 午後2時～2時30分

会 場：講堂（入場無料・定員40人）

参加人数：15人

〔こども工作ワークショップ「カラフル魔法の折り染め飾り～水彩の美しさ～」〕

10月4日（日） ①午前11時～ ②午前11時45分～ ③午前12時30分～ ④午後1時15分～

会 場：当館講堂（各回定員10人）

対 象：3歳くらい～小学校低学年

主 催：旭川教育大学短期大学椎名ゼミ

参加人数：計59人

〔講座「佐藤進と北海道の水彩画」〕

10月10日（土）

講 師：佐藤由美加（当館学芸課長）

会 場：当館講堂（聴講無料・定員40人）

参加人数：17人

〔ギャラリー・ツアー「佐藤道雄、父を語る」〕

10月25日（日）午後2時～3時

講 師：佐藤道雄氏

会 場：第1展示室

参加者数：32人

（募集制、参加無料）

〔教員のための鑑賞研修〕

9月26日（土）午前11時～12時

講 師：佐藤由美加（当館学芸課長）

会 場：講堂、第1展示室

参加者数：10人

（募集制、参加無料）

[オリエンテーション]

講師：学芸員

会場：講堂

実施回数：7回

参加者数：177人

■主な新聞記事等

北海道新聞 社告:8/21 取材記事:9/13 9/26 9/27 10/16 広告:8/288/31 9/3 9/4(夕) 9/6 9/9 9/15(夕) 9/16
9/17(夕) 9/18 9/23 9/27 9/29 10/2 10/4 10/6(夕) 10/9 (夕) 10/14 10/15 (夕) 10/18 10/19 10/23
10/27 10/29 10/29 (夕)

北海道通信 9/18 10/14

あざれ 9/20

美術の窓 10月号

■広報印刷物

ポスター：B2 縦、マットコート 135 kg、片面カラー、1,450 枚

チラシ：A4 縦、マットコート 110 kg、両面カラー、20,000 枚

観覧券：(招待券) 縦 160×横 60mm、(一般券) 縦 140×横 60mm、マットコート 90 kg、片面カラー、
13,000 枚

デザイン：株式会社 20 パーセント

製作：須田製版旭川支社

北の水彩 出品目録

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	所蔵先
明治・大正						
1	疋田 敬蔵	写生画帳	1879(明治12)	鉛筆、水彩・紙	11.0×15.5	北海道立近代美術館
2	鹿子木孟郎	土佐桂ノ濱	1928(昭和3)	水彩・紙	33.1×45.5	北海道立近代美術館
3	有島 武郎	風景		水彩・紙	28.8×35.1	北海道立文学館
4	有島 武郎	有珠無名谷の煙		水彩・紙	14.1×21.7	北海道立文学館
5	林 竹治郎	落橋写生		水彩・紙	16.0×23.5	北海道立近代美術館
6	林 竹治郎	円山苑内	1908(明治41)	水彩・紙	22.7×13.5	北海道立近代美術館
7	林 竹治郎	上野幌風景	1918(大正7)	水彩・紙	24.0×15.5	北海道立近代美術館
8	林 竹治郎	野幌	1918(大正7)	水彩・紙	15.0×23.5	北海道立近代美術館
9	林 竹治郎	豊平館	1939(昭和14)	水彩・紙	23.1×30.9	北海道立近代美術館
10	林 竹治郎	新田繁田	1918(大正7)	水彩・紙	27.5×15.0	北海道立近代美術館
11	林 竹治郎	高隅山	1939(昭和14)	水彩・紙	28.6×18.9	北海道立近代美術館
12	林 竹治郎	婦人図		水彩・紙	29.1×19.0	北海道立近代美術館
13	林 竹治郎	黄色いダリヤ		水彩・紙	24.1×18.0	北海道立近代美術館
14	林 竹治郎	画帳		水彩・紙	25.0×36.0×1.0	北海道立近代美術館
15	林 竹治郎	画帳		水彩・紙	24.5×36.0×0.5	北海道立近代美術館
16	林 竹治郎	水彩臨画	1908(明治41)	水彩・紙	12.5×18.5	北海道立近代美術館
17	優秀会 (俣野 第四郎ほか)	『画集 北極星』	1914(大正3)	水彩、鉛筆、色鉛筆・紙	16.9×24.4×1.8(冊子)	北海道立近代美術館
18	優秀会 (俣野 第四郎ほか)	『画集 第一号』	1914(大正3)	水彩、鉛筆、色鉛筆・紙	17.3×24.6×1.7(冊子)	北海道立近代美術館
19	優秀会 (俣野 第四郎ほか)	『画集 残雪 第三集』	1915/16 (大正4/大正5)	水彩、鉛筆、色鉛筆・紙	17.0×25.3×1.5(冊子)	北海道立近代美術館
20	優秀会 (俣野 第四郎ほか)	『画集 明星 第四集』	1917(大正6)	水彩、鉛筆、色鉛筆・紙	24.6×35.3×3.8(冊子)	北海道立近代美術館
21	長谷川 昇	少女	1905(明治38)	水彩・鉛筆・紙	32.5×26.5	北海道立近代美術館
22	俣野 第四郎	壺のある静物	1919(大正8)	水彩・紙	32.5×48.5	北海道立近代美術館
23	俣野 第四郎	りんごのある静物	1920(大正9)	水彩・紙	50.0×34.0	北海道立近代美術館
24	平澤 大暲	岩と溪流	1922(大正11)	水彩・紙	33.7×48.0	市立小樽美術館
25	平澤 大暲	海景	大正時代	水彩・紙	33.2×45.5	市立小樽美術館
26	平澤 大暲	塩谷の海	1935(昭和10)	テンペラ・紙	25.0×35.5	市立小樽美術館
27	平澤 大暲	春近し	1920(大正9)	水彩・紙	30.0×40.0	北海道立近代美術館
28	平澤 大暲	池畔の午後(於 小石川植物園)	1934(昭和9)	水彩・紙	22.5×30.0	市立小樽美術館
29	平澤 大暲	山路(定山溪バス路)	1935(昭和10)	水彩・紙	39.0×52.0	市立小樽美術館

書籍・雑誌

丸山 晩霞	水彩新天地	1904(明治37)	日本美術学院	北海道立近代美術館
大下藤次郎	水彩画階梯	1904(明治37)	内外出版協会	北海道立近代美術館

『みづゑ』 第1号	1905(明治38)	北海道立近代美術館
『みづゑ』 第23号	1907(明治40)	北海道立近代美術館
『みづゑ』 第25号	1907(明治40)	北海道立近代美術館
『みづゑ』 第26号	1907(明治40)	北海道立近代美術館
『みづゑ』 第27号	1907(明治40)	北海道立近代美術館
『みづゑ』 第30号	1907(明治40)	北海道立近代美術館
『みづゑ』 第15号	1906(明治39)	北海道立近代美術館
『みづゑ』 第168号	1919(大正8)	北海道立近代美術館
『みづゑ』 第171号	1919(大正8)	北海道立近代美術館
『みづゑ』 第174号	1919(大正8)	北海道立近代美術館
『みづゑ』 第182号	1920(大正9)	北海道立近代美術館
『みづゑ』 第189号	1920(大正9)	北海道立近代美術館
『みづゑ』 第199号	1921(大正10)	北海道立近代美術館
『みづゑ』 第205号	1922(大正11)	北海道立近代美術館
『みづゑ』 第214号	1922(大正11)	北海道立近代美術館
『みづゑ』 第244号	1925(大正14)	北海道立近代美術館

昭和

30 中西 利雄	教会の見える風景	1930(昭和5)	水彩・紙	54.0×70.0	北海道立近代美術館
31 中西 利雄	新緑	1939(昭和14)	水彩・紙	37.0×28.0	北海道立近代美術館
32 中西 利雄	白い服の女	1940(昭和15)	水彩・紙	76.0×56.0	北海道立近代美術館
33 中西 利雄	北大構内	1939(昭和14)	コンテ・紙	19.4×23.0	北海道立近代美術館
34 中西 利雄	北大構内	1939(昭和14)	鉛筆・紙	28.0×37.0	北海道立近代美術館
35 中西 利雄	札幌の夏(北大構内)	1939(昭和14)	水彩・紙	36.5×55.5	北海道立近代美術館
36 繁野 三郎	午睡	1926(大正15/昭和元)	水彩・紙	37.5×49.8	北海道立近代美術館
37 繁野 三郎	道庁南門通	1927(昭和2)	水彩・紙	38.8×49.8	北海道立近代美術館
38 繁野 三郎	葡萄	1929(昭和4)	水彩・紙	37.9×54.8	北海道立近代美術館
39 繁野 三郎	小樽港の午後	1929(昭和4)	水彩・紙	39.9×57.3	市立小樽美術館
40 繁野 三郎	バラ	昭和初期	水彩・絹	34.0×45.0	北海道立近代美術館
41 繁野 三郎	大沼	1976(昭和51)	水彩・紙	38.2×56.4	北海道立近代美術館
42 繁野 三郎	待春	1973(昭和48)	水彩・紙	60.0×72.0	北海道立近代美術館
43 繁野 三郎	晩秋	1971(昭和46)	水彩・紙	56.7×76.5	北海道立近代美術館
44 繁野 三郎	樹間秋色(円山)	1972(昭和47)	水彩・紙	60.0×72.0	北海道立近代美術館
45 繁野 三郎	山麓秋色	1982(昭和57)	水彩・紙	46.4×64.4	北海道立近代美術館
46 繁野 三郎	花菖蒲園	1975(昭和50)	水彩・紙	60.6×72.7	北海道立近代美術館
47 間宮 勇	北大の一廓	1936(昭和11)	水彩・紙	58.0×73.0	北海道立近代美術館
48 間宮 勇	曇りの海	1938(昭和13)	水彩・紙	37.0×58.0	北海道立近代美術館

49	間宮 勇	つなぎ船	1949(昭和24)	水彩・紙	77.2×109.2	北海道立近代美術館
50	間宮 勇	雪景(川沿の雪)	1965(昭和40)	水彩・紙	77.2×109.2	北海道立近代美術館
51	間宮 勇	冬木立(雪景)ポプラの雪	1962(昭和37)	水彩・紙	55.0×75.0	市立小樽美術館
52	間宮 勇	北国の雪景	1963(昭和38)	水彩・紙	80.3×100.0	市立小樽美術館
53	間宮 勇	凍れる河港	1971(昭和46)	水彩・紙	54.0×74.0	北海道立近代美術館
54	間宮 勇	河口早春	1973(昭和48)	水彩・紙	56.5×75.0	北海道立近代美術館
55	朝倉 力男	秋深し旭川神楽公園にて	不詳	水彩・紙	32.0×50.0	北海道立旭川美術館
56	泉 秀雄	農家の秋	1936(昭和11)	水彩・紙	55.0×75.0	北海道立旭川美術館
57	泉 秀雄	冬の貯炭場	1955(昭和30)	水彩・紙	109.0×75.0	北海道立旭川美術館
58	佐藤 進	北大構内	1939頃 (昭和14年頃)	水彩・紙	37.5×58.5	個人
59	佐藤 進	第三号温室(北大植物園にて)	1941(昭和16)	水彩・紙	68.5×55.0	北海道立旭川美術館
60	佐藤 進	豊平館(聖蹟の夏)	1942(昭和17)	水彩・紙	50.0×64.0	北海道立旭川美術館
61	佐藤 進	構内雪景(札幌豊平館)	1944(昭和19)	水彩・紙	57.0×73.5	北海道立旭川美術館
62	佐藤 進	南瓜	1946(昭和21)	水彩・紙	57.0×73.5	北海道立旭川美術館
63	佐藤 進	丘	1954(昭和29)	水彩・紙	70.5×95.5	北海道立旭川美術館
64	佐藤 進	廃屋	1967(昭和42)	水彩・紙	70.5×96.3	北海道立旭川美術館
65	佐藤 進	館	1980(昭和55)	水彩・紙	97.0×130.3	北海道立旭川美術館
66	佐藤 進	館	1980(昭和55)	水彩・紙	97.0×130.3	北海道立旭川美術館
67	佐藤 進	新緑の頃	1982(昭和57)	水彩・紙	72.5×90.0	北海道立旭川美術館
68	佐藤 進	松蟬の頃	1986(昭和61)	水彩・紙	97.30×130.3	北海道立旭川美術館
69	佐藤 進	鳥ぐもり	1983(昭和58)	水彩・紙	130.0×96.5	北海道立旭川美術館
70	佐藤 進	鳥ぐもり	1982(昭和57)	水彩・紙	98.0×130.0	北海道立旭川美術館
71	佐藤 進	丘	1981(昭和56)	水彩・紙	97.0×130.3	北海道立旭川美術館
72	宮崎 信吉	婦人像	1950(昭和25)	水彩・紙	72.5×53.0	市立小樽美術館
73	宮崎 信吉	祝津風景	1954(昭和29)	水彩・紙	53.0×45.5	市立小樽美術館
74	宮崎 信吉	川べりの春	1956(昭和31)	水彩・紙	60.0×72.7	市立小樽美術館
75	森田 正世史	水源(伊左内川)	1984(昭和59)	水彩・紙	96.7×130.0	市立小樽美術館
76	坂東 義秋	運河秋陽	1985(昭和60)	水彩・紙	97.0×130.0	市立小樽美術館
77	氏家 和夫	丸山晩秋	1975(昭和50)	水彩・紙	97.0×130.0	市立小樽美術館
78	大和屋 巖	枝のうた	1973(昭和48)	水彩・紙	100.0×80.3	市立小樽美術館
79	大和屋 巖	運河暮色	1985(昭和60)	水彩・紙	89.4×130.3	市立小樽美術館
80	大和屋 巖	うでのポーズ	1996(平成8)	水彩・紙	90.0×116.7	市立小樽美術館
81	高橋 好子	人(のり子像)	1950(昭和25)	水彩・紙	69.0×53.0	市立小樽美術館
82	高橋 好子	人(らくがき)	1953(昭和28)	水彩・紙	73.0×55.5	市立小樽美術館
83	白江 正夫	路地	1957(昭和32)	水彩・紙	71.3×105.5	市立小樽美術館

84	白江 正夫	機関庫のある港	1966(昭和41)	水彩・紙	79.0×108.5	市立小樽美術館
85	白江 正夫	運河薄日	1979(昭和54)	水彩・紙	108.8×79.0	北海道立近代美術館
86	白江 正夫	陸橋(妙見市場)	1994(平成6)	水彩・紙	77.0×108.0	市立小樽美術館
87	白江 正夫	さいはて(道北)	1993(平成5)	水彩・紙	130.3×97.0	市立小樽美術館
88	白江 正夫	朔北	1994(平成6)	水彩・紙	130.3×97.0	北海道立近代美術館
89	白江 正夫	風さわぐ	2003(平成15)	水彩・紙	130.3×97.0	北海道立近代美術館

現在

90	宮川 美樹	刻	2001(平成13)	漆、螺鈿、蒔 絵	88.3×113.8	北海道立近代美術館
91	宮川 美樹	刻	2005(平成17)	水彩、アクリ ル・紙	90.9×116.7	市立小樽美術館
92	志賀 迪	寂	1998(平成10)	水彩、アクリ ル・紙	96.0×129.0	北海道立近代美術館
93	高松 秀人	二軒の家	2009(平成21)	水彩・紙	89.4×130.3	作家
94	高松 秀人	残された家の静かな一日	2017(平成29)	水彩・紙	89.4×130.3	作家
95	高松 秀人	残された家	2020(令和2)	水彩・紙	89.4×145.5	作家
96	宮西 隆生	初夏の丘	2011(平成23)	水彩・紙	114.0×146.0	作家
97	宮西 隆生	冬の巨木	2015(平成27)	水彩・紙	114.0×146.0	作家
98	宮西 隆生	夏の清流Ⅱ	2015(平成27)	水彩・紙	116.0×89.0	作家
99	石垣 渉	笹〜コスモ〜	2015(平成27)	水彩・紙	151.0×230.0	作家
100	石垣 渉	分岐点Ⅱ	2016(平成28)	水彩・紙	112.1×145.5	作家
101	石垣 渉	雪上の轍〜その先	2018(平成30)	水彩・紙	151.0×230.0	作家
102	石垣 渉	轍〜兆し〜	2019(平成31/令 和元)	水彩・紙	130.3×162.1	作家
103	石垣 渉	夜明けの道	2019(平成31/令 和元)	水彩・紙	145.5×112.1	作家
104	石垣 渉	先へ	2018(平成30)	水彩・紙	130.3×162.1	作家

※寸法は平面作品では縦×横、立体作品では高さ×幅×奥行、あるいは高さ×径

北の水彩

Watercolors of Hokkaido



佐藤 進《新緑の頃》1982年 北海道立旭川美術館蔵

2020.9月12日|土|—11月1日|日|

開館時間：午前9時30分～午後5時（入場は閉館30分前まで）

休館日：月曜日（ただし9月21日を除く）、9月23日（水）

観覧料：一般800（600）円、高大生500（400）円、小中生300（200）円

*第2展示室との共通料金：一般910円、高大生560円

*（ ）内は前売り、10名以上の団体、リピーター割引、旭川リンクリンクミュージアムによる割引料金。

*障害者手帳をお持ちの方等は無料。 *本展の前売り券は、9月11日（金）まで当館で販売します。

主催 北海道立旭川美術館 共催 北海道新聞旭川支社

北海道立旭川美術館

Hokkaido Asahikawa Museum of Art

〒070-0044 旭川市常磐公園内 TEL0166-25-2577

<http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/abj/top.htm>

[@Asahikawa_Art](https://twitter.com/Asahikawa_Art)



アートギャラリー北海道



中西 利雄《札幌の夏(北大風景)》1939年 北海道立近代美術館蔵



宮川 美樹《刻》2001年 北海道立近代美術館蔵



繁野 三郎《樹間秋色(円山)》1972年 北海道立近代美術館蔵

北の水彩

Watercolors of Hokkaido

水彩画は、画材の親しみやすさや手軽さから広く普及し愛されている絵画です。明治30年代後半から全国的に流行し、北海道でも、よく目にされるようになります。昭和初期には、中西利雄らによって、水彩画の革新をめざす動きが起こりました。ちょうどその頃、北海道では繁野三郎が水彩画家として頭角をあらわしてきており、昭和10年代に、札幌で、中西らの水彩画講習会が数回にわたって開催されたこともきっかけとなり、北海道でも水彩画が活気を帯びていきます。40年以上旭川で過ごした佐藤進は、昭和から平成にかけて活躍した北海道を代表する水彩画家の一人で、自宅近くの風景を描き続けました。

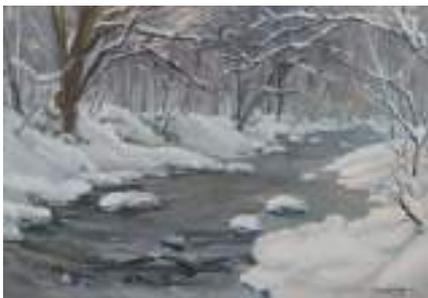
本展は、道内各地の美術館がネットワークでつながる「アートギャラリー北海道」事業として開催されます。水彩画を数多く所蔵している北海道立近代美術館、市立小樽美術館と当館のコレクションを中心に、明治から現在活躍中の作家まで、水彩画の魅力をご紹介します。



白江 正夫《さいわいて(道北)》1993年 市立小樽美術館蔵



大和屋 巖《運河暮色》1985年 市立小樽美術館蔵



間宮 勇《北国の雪景》1963年 市立小樽美術館蔵



石垣 渉《轍へ兆し〜》2019年 作家蔵

関連事業

○美術講演会「近代の水彩画と北海道」

日時：9月12日(土) 午前10時30分～11時30分
講師：新明英仁氏(市立小樽美術館館長)
会場：当館講堂(聴講無料・定員30名)

○アーティスト・トーク

日時：9月19日(土) 午後2時～3時
講師：石垣渉氏(本展出品作家)
会場：当館第1展示室(要観覧券)
日時：9月26日(土) 午後2時～3時
講師：高松秀人氏、宮西隆生氏(本展出品作家)
会場：当館第1展示室(要観覧券)

○上映会「石垣渉 水彩画 作品ができるまで」

本展出品作家・石垣渉の制作の様子を特別上映します。
日時：9月20日(日) 午後2時～2時30分
会場：当館講堂(入場無料・定員30名)

○子ども工作ワークショップ

「カラフル魔法の折り染め飾り～水彩の美しさ」

日時：10月4日(日)
①午前11時～ ②午前11時45分～
③午前12時30分～ ④午後1時15分～
会場：当館講堂(参加無料・各回定員10名)
対象：3歳くらい～小学校低学年
主催：旭川大学短期大学部椎名ゼミ

○講座「佐藤進と北海道の水彩画」

日時：10月10日(土) 午後2時～3時
講師：当館学芸員
会場：当館講堂(聴講無料・定員30名)

*イベントの予定は変更となることがございます。
*新型コロナウイルス感染拡大防止にご協力をお願いします。

第2展示室のご案内

○「旭美・この一点 — 黒田辰秋《神代櫓彫文飾棚》」



黒田辰秋
《神代櫓彫文飾棚》
1974年 当館蔵

当館を代表する所蔵作品の一つ、黒田辰秋《神代櫓彫文飾棚》は作家が自宅で愛用していたという逸品。本作を制作した重要無形文化財保持者の黒田辰秋(1904-1982)が参加した民藝運動について紹介するとともに、その影響を受けた工芸作品を紹介します。

観覧料：一般260(210)円、高大生150(110)円
*()内は10名以上の団体料金
*中学生以下および65歳以上の方などは無料。
土曜日は高校生無料。11月1日(芸術週間)は無料。

関連事業

○欠けた器を直す金継ぎ講座【要事前申込】

日時：10月14日(水)、10月21日(水)、10月28日(水)
計3回の連続講座(各回定員5名)
午前の部(午前10時～12時)、午後の部(午後1時～3時)
講師：堀内亜理子氏(漆芸家)
会場：当館講堂(参加料5000円)
*詳細は、当館HPをご覧ください。
美術館までお問い合わせください。



交通案内

- 徒歩：JR 旭川駅から約20分。
- バス：旭川駅北側の1条通の14番バス停(1条8丁目)から3・13・23・24・33・35番のバスに乗り。最寄りのバス停は(4条4丁目)(3・33・35番)、徒歩5分。または(8条西1丁目)(13・23・24番)、徒歩3分。また、(常磐公園前)を経由するバスもご利用いただけます。バス停から徒歩7分。
- タクシー：旭川駅前から10分。800円程度。
- 駐車場：常磐公園駐車場(無料/午前9時～午後5時)がご利用いただけますが、台数に限りがあります。



北海道立旭川美術館

Hokkaido Asahikawa Museum of Art

〒070-0044 旭川市常磐公園内 TEL0166-25-2577

<http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/abj/top.htm>

[Twitter](#) @Asahikawa_Art

「木」と「あそび」美術館

Playings with Wood: Sculptures, Crafts and Toys

会 期：令和3年1月9日（土）～令和3年3月31日（水）
主 催：北海道立旭川美術館
共 催：北海道新聞旭川支社
協 力：西興部村教育委員会、森の美術館「木夢」

北海道は豊かな森林資源にめぐまれ、特に、旭川近郊では家具産業を始め、木を利用することによって私たちの生活は豊かに彩られている。本展は、この土地に身近な木を、改めて見つめ直す機会として、また子どもたちにも楽しく触れていただく機会として企画した。当館の収集方針の一つが「木を素材とした造形作品」であり、「道北地域にゆかりのある作品」であることから、これまで収集してきた木を素材とした美術作品のなかから、1987年に開催された「はこで考える—あそびの木箱‘87」の出品作品をはじめとした遊びを感じる作品や木をテーマとした作品を選んだ。あわせて、地域の美術館等のネットワーク「アートギャラリー北海道」に参加している西興部村の森の美術館「木夢」所蔵の木のおもちゃを紹介し、木について遊びながら学べる展覧会を目指し、美術の側面から地域を見つめる機会とした。会期中、2,933人の入場があった。

■関連事業

[30分でめぐる！ギャラリーツアー]

講 師：関口千代絵（当館学芸員）

会 場：第1展示室

（自由参加、要観覧券）



2月12日（金）午後2時～（約30分）

参加者数：6人



3月13日（土）午後2時～（約30分）

参加者数：6人



3月14日（日）午後2時～（約30分）

参加者数：5人

[北海道旭川農業高等学校の出張工作教室]

2月27日（土）午前10時～、午後2時～（各約1時間）

講 師：小山靖之氏(北海道旭川農業高等学校教諭)、北海道旭川農業高等学校森林科学科森林資源活用班
会 場：第1展示室、講堂

(自由参加、要観覧券)

参加者数：午前23人、午後19人

[アーティスト・トーク]

3月20日(土) 午後1時～(約30分)

講 師：中井啓二郎氏(木工作家)、丹野則雄氏(木工作家)

会 場：第1展示室

(自由参加、要観覧券)

参加者数：18人

[北海道教育大学旭川校連携ギャラリートーク]

1月23日(土) 午前10時30分～(約1時間)

講 師：南部正人氏(北海道教育大学旭川校教授/造形教育)

会 場：第1展示室

参加者数：4人

(自由参加、要観覧券)



2月13日(土) 午後2時～(約30分)

講 師：八重樫良二氏(北海道教育大学旭川校教授/デザイン)

会 場：第1展示室

参加者数：29人

[教員のための鑑賞研修]

1月23日(土) 午前11時～12時

講 師：関口千代絵(学芸員)

会 場：講堂、第1展示室

参加者数：6人

(募集制、参加無料)

■主な新聞記事等

北海道新聞 12/9(社告) 1/8 1/10 2/7 3/3

毎日新聞 12/30

朝日新聞 1/28 2/19

北海道通信 1/19 3/2

■広報印刷物

ポスター：B2 縦、マットコート 135 kg、片面カラー、1,400 枚

チラシ：A4 縦、マットコート 110 kg、両面カラー、17,000 枚

観覧券：(招待券) 縦 160×横 60mm、(一般券) 縦 140×横 60mm、マットコート 90 kg、片面カラー、
9,000 枚

デザイン：株式会社 20 パーセント

製作：株式会社総北海

「木」と「あそび」美術館 出品目録

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)
1	佐藤 道雄	早春	1990(平成2)	油彩、キャンバス	130.3×162.1
2	佐藤 進	館	1980(昭和55)	水彩、紙	98.0×130.0
3	朝倉 力男	河畔の厳冬	1959(昭和34)	油彩、キャンバス	112.1×145.5
4	丹野 則雄	薬一ひこばえ	1992(平成4)	黒柿、ローズウッド、メープル、ウレタンオイル塗装／カリン、パドック、メープル、ウレタンオイル塗装	7.0×14.0×13.0、10.0×9.0×12.0(2点組)
5	中井 啓二郎、丹野 則雄	木靴(KIBAN)	1981(昭和56)	クルミ、コルク、ローズウッド	31.5×24.5×41.0
6	中井 啓二郎、丹野 則雄	木箱(KIBAKO)	1981(昭和56)	クルミ、コルク、ローズウッド	9.0×9.0×45.0
7	山中 晴夫	海の中の音楽会	1987(昭和62)	カバ、サクラ、トチ、ナラ、彩色	44.0×50.0×13.0
8	大橋 行雄	シジュウカラハコ(小物入)	1987(昭和62)	シナ	7.5×37.5×42.0
9	菊池 光典	戯端箱	1992(平成4)	黒檀、カバ、キリ、ツヤ消しウレタン塗装	30.0×41.0×33.0
10	菊池 光典	押・抽斗 トチップ	1992(平成4)	トチ、黒檀、キリ、プレポリマー下地ツヤ消しウレタン塗装	24.0×39.0×25.0、39.0×26.0×25.0(2点組)
11	戸村 浩	旭の川	1992(平成4)	タモ、拭漆	径13.0、1.8×5.0×28.0、1.8×4.0×25.0、1.8×3.0×22.0(4点組)
12	戸村 浩	中身が見える秘密箱(A)	1981(昭和56)	チーク	18.0×36.0×36.0
13	戸村 浩	中身が見える秘密箱(B)	1981(昭和56)	チーク	18.0×36.0×18.0
14	戸村 浩	木の星 Jupiter	1987(昭和62)	ニヤトー、ニス塗装	径23.4
15	八田 頼明	むすびの箱(女)	1981(昭和56)	キリ	16.0×22.0×22.0
16	八田 頼明	むすびの箱(男)	1981(昭和56)	ケヤキ	23.8×22.0×22.0
17	八田 頼明	むすびの箱(女)	1987(昭和62)	キリ、クロガキ	15.3×21.5
18	八田 頼明	むすびの箱(男)	1987(昭和62)	ケヤキ	18.5×22.2
19	鹿目 尚志	気が気でない気箱	1981(昭和56)	ケヤキ、鉄	51.0×30.0×30.0
20	鹿目 尚志	はこの奥はこの奥	1987(昭和62)	タモ、黒塗装拭きとり仕上げ	50.0×50.0×50.0
21	野嶋 峰男	櫛拭漆手箱	1987(昭和62)	ケヤキ、拭漆	6.5×24.0×19.5
22	野嶋 峰男	櫛拭漆下駄箱	1987(昭和62)	ケヤキ、拭漆	9.3×17.0×22.3
23	米坂 ヒデノリ	舍利容器♂♀	1981(昭和56)	コクタン、真鍮	♂6.7×11.7×10.2、♀6.7×11.9×10.0(2点組)
24	山口 健智	静物一切れた電球	1965(昭和40)	油彩、キャンバス	25.4×33.3

25	三沢 厚彦	Animal 2000-02		2000(平成12)	クス、油彩	65.0×196.0×177.0
26	福井 爽人	沼の風景		2002(平成14)	紙本彩色、屏風 (四曲一隻)	177.0×360.0
27	舟越 桂	午後にはガンター・グローブにいる		1988(昭和63)	クス、大理石、 アクリル絵具	183.0×66.0×38.0
28	戸谷 成雄	森		1990(平成2)	米ツガ、灰、ア クリル絵具	219.0×30.0×30.0
29	砂澤 ビッキ	ニツネカムイ		1988(昭和63)	カツラ、クル ミ、タモ	122.0×36.0×48.0
30	菅 木志雄	枝に沿ってある		1982~1983 (昭和57~58)	合板、枝	192.0×156.0×9.0
31	菅 木志雄	景間—E		1991(平成3)	サワラ、スギ、 石	141.0×217.0×165.0
32	桂 ゆき	作品		1979(昭和54)	コルク、板	162.0×131.0×13.0
33	菅沼 緑	無題		1983(昭和58)	カン、象嵌	67.0×124.5×25.5
34	菅沼 緑	無題		1985(昭和60)	チーク、象嵌	68.0×106.0×46.0
35	菅沼 緑	無題		1985(昭和60)	マカバ、象嵌	170.0×36.0×41.0
36	菅沼 緑	箱の中と外(1)		1987(昭和62)	チーク、象嵌	52.5×21.5×23.5
37	植木 茂	トルソーレリーフ		1980(昭和55)	木	42.0×31.0
38	植木 茂	自然の風物 No. 1		1983(昭和58)	ブナ、竹ヒゴ、 和紙	53.0×45.0
39	植木 茂	自然の風物 No. 2		1983(昭和58)	ブナ、竹ヒゴ、 和紙	53.0×45.0
40	植木 茂	無題 1		1982~1984 (昭和57~59)頃	木、和紙	56.5×45.5
41	植木 茂	無題 2		1982~1984 (昭和57~59)頃	木、和紙	56.5×45.5
42	植木 茂	無題 3		1982~1984 (昭和57~59)頃	木、和紙	56.5×45.5
43	植木 茂	無題 4		1982~1984 (昭和57~59)頃	木、和紙	56.5×45.5
44	植木 茂	無題 5		1982~1984 (昭和57~59)頃	木、和紙	56.5×45.5
45	板津 邦夫	大きな仮面		1980(昭和55)	ナラ	216.7×59.5×22.3
46	板津 邦夫	はたらく自動車		2005(平成17)	木、ワックス	20.8×30.5×12.5
47	板津 邦夫	はたらく自動車		2005(平成17)	木、アクリル絵 具、ワックス	19.0×29.0×14.7
48	板津 邦夫	僕の夏休み自由研究 板津 邦夫	42組	2004(平成16)	木、アクリル絵 具	46.0×31.2×5.3
49	板津 邦夫	僕の夏休み自由研究 板津 邦夫	42組	2004(平成16)	木、アクリル絵 具	31.2×23.7×4.8
50	黒蔵 壮	明日へのとびら		1996(平成8)	クス、ホオ、鉄	233.0×241.0×140.0
51	最上 壽之	ダンダンダ		1961(昭和36)	アカマツ	190.0×141.0×136.0
52	富松 孝侑	木に—1995		1995(平成7)	クス	168.0×120.0×40.0
53	壺田 たけを	神の宿る箱		1987(昭和62)	廃材	51.0×48.7×49.5
54	村上 善男	箱的終焉(第二案)		1987(昭和62)	杉廃材、古文 書、アクリル ラッカー塗装	27.0×27.0×24.0

55	WOOD LANDER' S木那 片岡 祥光 片岡 祐士 岩藤 孝一	PLAYING 木EY BOX II	1987(昭和62)	エゾマツ、ウレタン塗装	16.5×33.0×27.5
56	ペーター・ヘルク ヴィスト	ポールヘムに捧げる	1987	セン、カリン、アズベ、リンシードオイル塗装	18.0×36.0×18.0
57	林 範親	B-1 南通路・3387	1992(平成4)	スプルーース(古材)、ヒバ(古材)、アクリル絵具	60.0×60.0×27.0
58	林 範親	3-F 北通路・2157	1992(平成4)	スプルーース(古材)、ヒバ(古材)、アクリル絵具	60.0×55.0×27.0
59	古渡 章	開かれた景 SCENE(記憶の情景I)	1992(平成4)	ヒバ、アクリル絵具	21.0×14.5×12.5
60	古渡 章	開かれた景 SCENE(記憶の情景II)	1992(平成4)	ヒバ、アクリル絵具	21.0×14.5×12.5
61	古渡 章	閉じた景 SCENE(閉じた景)	1992(平成4)	ヒバ、アクリル絵具	21.0×12.5×12.5
62	古渡 章	閉じた景 SCENE(風景の扉)	1992(平成4)	ヒバ、アクリル絵具	21.0×12.5×12.5
63	伊藤 英二	組木パネルーノアの箱舟	不詳	木	114.5×84.5×4.0
64	伊藤 英二	組木パネルークリスマス	不詳	木	82.0×97.0×4.0
65	伊藤 英二	プロペラ飛行機	不詳	木	20.0×24.0×32.0
66	伊藤 英二	ヘリコプター	不詳	木	20.0×32.0×41.0
67	伊藤 英二	ドアチャイム	不詳	木	61.0×6.0
68	伊藤 英二	水鳥のモビール	不詳	木	30.0×19.5×34.0
69	伊藤 英二	餅つきコムコム	不詳	木	7.5×30.0×15.0
70	伊藤 英二	Go Go ラビットカー	不詳	木	5.5×24.0×12.5
71	伊藤 英二	尾をふるキセキレイ	不詳	木	25.0×7.3×19.0
72	伊藤 英二	ブルドッグ	不詳	木	16.0×7.0×10.0
73	伊藤 英二	渡り鳥のモビール	不詳	木	4.7×75.0×80.0
74	伊藤 英二	おもちゃの部屋	不詳	木	73.0×57.5×49.0ほか
75	伊藤 英二	オルゴールタワー	不詳	木	80.0×36.0×110.0
76	藤木 康一	ミラクル・コロコロタワー	不詳	木	60.0×60.0×118.0
77	藤木 康一	オルゴールタワー	不詳	木	32.0×32.0×82.0
78	藤木 康一	えんぱんスロープ	2016(平成28)	木	66.0×57.5×140.5
79	藤木 康一	坑道ストーリー	2008(平成20)	木	55.2×41.3×85.0
80	藤木 康一	箱舟	2008(平成20)	木	51.0×34.7×70.0
81	藤木 康一	バスジャック(占領された・・・バス)	2008(平成20)	木	33.7×65.0×80.0

82	藤木 康一	がれきの甲板	2011(平成23)	木	35.5×34.5×16.0
83	藤木 康一	蒸発船	2008(平成20)	木	41.3×54.9×9.5
84	藤木 康一	砂上浮遊(浮上・・・波高し)	2011(平成23)	木	36.0×52.0×14.0
85	(有)おかざき	ハンドスクーター	1999(平成11)	集成材(セン)、 イチイ、埋もれ 木、エンジュ、 金属、ゴム、イ タヤカエデ	110.0×84.0×70.0
86	(株)北樹	Jeep	2004(平成16)	イタヤカエデ、 イチイ、埋もれ 木、黒檀、セン	147.0×95.0×73.0
87	ネフ社 (クルト・ネフ)	ネフスピール	不詳	木	22.0×22.0×5.0
88	ネフ社	トルシィゴマ(緑・黄・オレンジ)	不詳	木	径6.0
89	ネフ社(Fred Voss)	ディアボ(白・黒)	不詳	木	7.0×7.0×5.0
90	ネフ社 (Fred Voss)	ディアボ(赤・青)	不詳	木	7.0×7.0×5.1
91 — 94	ネフ社 (Peer Clahsen)	キュービックス(赤) (グレー)(青)(白木)	不詳	木	10.0×10.0(10ピー ス)10.0×10.0(11ピー ス)
95 — 96	ネフ社 (Michael Tigges)	カラ(白木)(グレー)	不詳	木	20.0×20.0
97	ネフ社 (Peer Clahsen)	ダイヤモンド	不詳	木	12.5×12.5(15ピース)
98	ネフ社 (Peter Schmid)	リグノ	不詳	木	22.0×22.0×5.0(16ピー ス)
99 — 101	ネフ社(Francesco Tucci)	ルナ(赤)(青)(緑)	不詳	木	径10.0
102 — 103	ネフ社 (Heiko Hillig)	チョープ(白木)(青)	不詳	木	12.5×12.5
104 — 106	ネフ社 (Peer Clahsen)	セラ(青)(赤)(白木)	不詳	木	10.0×10.0(9ピース)
107	ネフ社(Yasuo Aizawa)	ヴィボ	不詳	木	16.5×14.0(12ピース)
108	ネフ社(Yasuo Aizawa)	アレーナ	不詳	木	径10.0(8ピース)
109	ネフ社 (Peer Clahsen)	アングーラ	不詳	木	22.5×22.5(17ピース)
110	ネフ社	タベラ	不詳	木	22.0×22.0×5.0(12ピース)
111	小黒 三郎	30の動物・ダ円	不詳	木	47.0×74.0×2.5
112	小黒 三郎	樹の下のゾウの家族・MC	不詳	セン	9.3×22.0×2.4
113	小黒 三郎	丘の上のネコと十二支・SC	不詳	ブナ	14.0×28.5×0.8
114	小黒 三郎	ネズミの家	不詳	ナラ	12.0×13.5×3.0
115	小黒 三郎	木の中のウマの家族と三天使	不詳	ブナ	10.2×17.8×1.8

116	小黒 三郎	5匹の子ブタ・MC	不詳	セン	9.0×18.0×2.1
117	小黒 三郎	5匹の子トラ・MC	不詳	セン	9.0×15.0×2.4
118	小黒 三郎	4つの箱のキューブ	不詳	ナラ	29.0×43.0×2.4
119	小黒 三郎	帽子・A	不詳	木	12.5×17.0×1.2
120	小黒 三郎	ながぐつ・A	不詳	木	17.0×12.5×1.2
121	小黒 三郎	てぶくろ・A	不詳	木	17.0×12.5×1.2
122	小黒 三郎	ウマのカップルとハート・L	不詳	メープル	11.2×20.5×3.0
123	小黒 三郎	カバのカップルとハート・L	不詳	メープル	11.1×20.5×3.0
124	小黒 三郎	ゾウのカップルとハート・L	不詳	メープル	11.1×25.0×3.0
125	小黒 三郎	ネコのカップルとハート・L	不詳	メープル	13.3×14.5×3.0
126	小黒 三郎	ポインターの家族・M	不詳	ナラ	8.8×27.5×2.4
127	小黒 三郎	5匹のウサギ家族・MC	不詳	木	9.4×12.5×2.4
128	小黒 三郎	ネコの家族・M	不詳	ナラ	17.3×12.2×24
129	小黒 三郎	ウマ・ブタ・ライオン	不詳	木	12.2×12.2×1.0
130	小黒 三郎	カニ・フグ・ラッコ	不詳	木	12.2×12.2×1.0
131	小黒 三郎	四つのアニマルキューブ	1981(昭和56)	ナラ、ヒノキ	各箱の1辺：12.9、16.1、19.3、29.5
132	佐貫 友紀	Stool-sprout	2019(令和元)	木	
133	佐貫 友紀	Stool-Box&Legs	2019(令和元)	木	
134	佐貫 友紀	TOY BOX CHAIR	2014(平成26)	木	
135	早見 賢二	キレンジャク・モビール	不詳	カバ、クルミ、ケヤキ	
136	早見 賢二	「鳥たちの空」マガモ・モビール	2020(令和2)	ヤチダモ、ナラ、クルミ、ケヤキ、ヤチダモ埋れ木	
137	八重樫 良二	積み木の塔	1989(平成元)	サクラ	
138	八重樫 良二	ラクダの積み木	1988(昭和63)	セン	
139	八重樫 良二	ルール	2017(平成29)	セン	73.0×82.0×5.0~9.0
140	八重樫 良二	ランドスケープ	1992(平成4)	ナラ、コルクボード	
141	八重樫 良二	スイングバード	1999(平成11)	サクラ、ブナ、ナラ、ローズウッド、ウォールナット、アメリカンパドック	
142	北海道教育大学旭川校	色画用紙によるモビール	2020(令和2)	紙	

143	KEM工房	木育の玉手箱	—	木	
144	合同会社森の タゴラス	ピ 森のピタゴラス	—	木	
145	北海道旭川農業高等 学校森林科学科	スロープトイ 第3弾	2019(令和元)	ミズナラ、アク リル板	90.0×85.0×40.0
146	北海道旭川農業高等 学校森林科学科	スロープトイ 第8弾	2020(令和2)	アカエゾマツ (古材)、ミズナ ラ、アクリル板	141.0×74.0×46.0
147	北海道旭川農業高等 学校森林科学科	ブラックボックススロープトイ (スロープトイ 第4弾①)	2019(令和元)	アカエゾマツ、 ミズナラ	118.0×28.0×40.0
148	北海道旭川農業高等 学校 森林科学科	旭山のレッサーパンダが遊ぶ吊 り橋スロープトイ (スロープトイ 第7弾)	2020(令和2)	アカエゾマツ (古材)、ミズナ ラ、アクリル板	45.5×58.0×34.0
149	北海道旭川農業高等 学校 森林科学科	スロープトイ 第6弾	2019(令和元)	アカエゾマツ (古材)、ミズナ ラ、アクリル板	125.7×60.6×51.9

※寸法は平面作品では縦×横、立体作品では高さ×幅×奥行、あるいは高さ×径

※No.1～62、131は当館蔵

※No.63～130は森の美術館「木夢」蔵

※No.132～142は作家蔵

※No.143,145は北海道水産林務部森林環境局森林活用課蔵

※No.145～149は北海道旭川農業高等学校蔵

関連図書

書名	著者名	出版社	発行年
1 『くすのきだんちのなつやすみ』	武鹿悦子作	ひかりのくに	2013
2 『森のみずなら』	高森登志夫 ぶん／え	福音館書店	2011
3 『自然のふしぎ大図解』	アマンダ・ ウッド作	偕成社	2017
4 『里山のヤママユ』	新開孝写真・ 文	小学館クリエ イティブ	2017
5 『いっしょだよ』	小寺卓矢写 真・文	アリス館	2012
6 『いろいろはっぱ』	小寺卓矢写 真・文	アリス館	2017
7 『だって春だもん』	小寺卓矢写 真・文	アリス館	2009
8 『森のいのち』	小寺卓矢写 真・文	アリス館	2006
9 『木のすきなケイトさん』	H. ジョゼフ・ ホブキンズ 文	BL出版	2015
10 『木を植えた男』	ジャン・ジオ ノ原作	あすなろ書房	1989
11 『森へ』	星野道夫文・ 写真	福音館書店	1996
12 『おいでよ森へ』	「おいでよ 森へ」プロ ジェクト編	ダイヤモンド 社	2016
13 『森を育てる生きものたち』	谷本雄治文	岩崎書店	2008
14 『ブナの森を探検しよう! さぐろう、四季と生物多 様性』	瀬川強著	PHP研究所	2018
15 『もりのほうせきねんきん』	新井文彦写 真・文	ポプラ社	2018
16 『木の実のたんけん』	おくやまひ さし著	少年写真新聞 社	2018

17	『ひろって調べる落ち葉のずかん』	安田守写真・文	岩崎書店	2018
18	『きほんの木 花がきれい』	姉崎一馬写真	アリス館	2019
19	『きほんの木 大きくなる』	姉崎一馬写真	アリス館	2019
20	『みちかな樹木のえほん 生きものやくらしとつながる「一本の木の物語」』	国土緑化推進機構編	ポプラ社	2018
21	『もし地球に植物がなかったら?』	きねふちなつみ作	あすなろ書房	2019
22	『たったひとつのドングリがすべてのいのちをつなぐ』	ローラ・M. シューファーぶん	評論社	2018



き

あそ

木と遊び

PLAYING WITH WOOD : SCULPTURES, CRAFTS AND TOYS

美術館

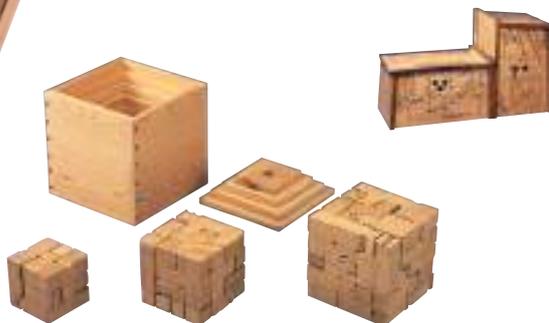
2021.1月9日|土|~3月31日|水|

開館時間:午前9時30分~午後5時(入場は閉館30分前まで) 休館日:月曜日(ただし1月11日を除く)、1月12日(火)
観覧料:一般800(600)円、高大生500(400)円、小中生300(200)円

* ()内は前売り、10名以上の団体料金。*障害者手帳をお持ちの方等は無料。*本展の前売券は2021(令和3)年1月8日(金)まで当館で販売します。
*リピーター割引、ファミリー割引、旭川リンクリンクミュージアムによる割引料金など、お得な割引料金もあります。詳しくは旭川美術館までお問い合わせください。

主催/北海道立旭川美術館 共催/北海道新聞旭川支社 協力/西興部村教育委員会・森の美術館「木夢」

北海道立旭川美術館
Hokkaido Asahikawa Museum of Art
〒070-0044 旭川市常磐公園内 TEL 0166-25-2577
<http://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/abj/top.htm>
@Asahikawa_Art





山中晴夫「海の中の音楽会」
1987(昭和62)年 当館蔵



鹿目尚志「気が気でない気箱」
1981(昭和56)年 当館蔵



黒蔵社「明日へのとびら」
1996(平成8)年 当館蔵



早見賢二「鳥たちの空」
2020(令和2)年 作家蔵



展示の様子(イメージ)
西興部村・森の美術館「木夢」



中井啓二郎、丹野則雄「木靴(KIBAN)」
1981(昭和56)年 当館蔵



野嶋峰男「櫻拭漆下駄箱」
1987(昭和62)年 当館蔵



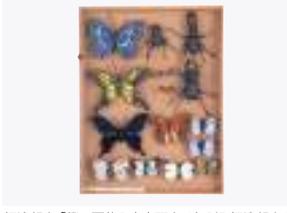
北海道旭川農業高等学校「スロープトイ」
2020(令和2)年 北海道旭川農業高等学校蔵



坂津邦夫「はたらく自動車」
2005(平成17)年 当館蔵



三沢原彦「Animal 2000-02」
2000(平成12)年 当館蔵



坂津邦夫「僕の夏休み自由研究 4年2組 坂津邦夫」
2004(平成16)年 当館蔵



小黒三郎「四つのアニマルキューブ」
1981(昭和56)年 当館蔵



菊池光典「押・抽斗トチップ」
1992(平成4)年 当館蔵



菅沼緑「箱の中と外(1)」
1987(昭和62)年 当館蔵



八重樫良二「積み木の塔」
1989(平成元年) 作家蔵

木と遊び 美術館

北海道は豊かな森林資源にめぐまれ、特に、旭川近郊では家具産業が盛んです。私たちの生活も、木を利用することによって豊かに彩られています。当館は「木を素材とした造形作品」を、収集方針の大きな柱とし、木をテーマとしたさまざまな展覧会を開催してきました。本展では、「はこで考える一あそびの木箱」展('87、'92)など、これまで当館で開催された展覧会出品作から、「あそび」を感じる作品を中心にをご紹介します。あわせて、森の美術館「木夢」(西興部村)より初代館長であり木のおもちゃの作家である伊藤英二(1932～2012)の作品をはじめとする木のおもちゃや地域で活躍する作家の作品を展示します。

あわせて楽しむイベント *変更となる場合がありますのでご了承ください。

ウディ★工作アトリエ2021

「親子で木のおもちゃづくり」

日時/①1月30日(土)午後1時～3時、②1月31日(日)午前10時～12時
講師/佐賀友紀氏(森の美術館「木夢」木工指導員、学芸員、当館学芸員)
会場/当館講堂、第1展示室(「木」と「あそび」美術館展)、第2展示室(荒井善則展)
対象/各回、小学生と保護者 計10組(20名) *要事前申込
参加料/1組 1,200円(材料費、観覧料、保険料等を含む)
申込/1月9日(土)より電話(0166-25-2577(月曜休館)、9:30～17:00)にて受付



旭川農業高等学校の出張工作教室

「スロープトイで遊んで、世界にたった一つの木琴を作ろう！」

日時/2月27日(土)①午前10時～、②午後2時～(各約60分)
講師/旭川農業高等学校のみなさん
会場/当館第1展示室(要観覧券)



北海道教育大学旭川校連携

ギャラリー・トーク

「アートカードでの鑑賞活動」

日時/1月23日(土)午前10時30分～(約60分)
講師/南部正人氏
(北海道教育大学旭川校教授)
会場/当館第1展示室(要観覧券)

北海道教育大学旭川校連携

ギャラリー・トーク

「出品作品とデザインのお話」

日時/2月13日(土)午後2時～(約30分)
講師/八重樫良二氏
(北海道教育大学旭川校教授)
会場/当館第1展示室(要観覧券)

アーティスト・トーク「箱」と「遊び」

日時/3月20日(土、祝)午後2時～(約60分)
講師/中井啓二郎氏、丹野則雄氏(木工作家)
会場/当館第1展示室(要観覧券)

30分でめぐる! ギャラリーツアー

日時/2月12日(金)、3月13日(土)、
14日(日)各日午後2時～(約30分)
講師/当館学芸員
会場/当館第1展示室(要観覧券)

第2展示室のごあんない

「荒井善則展 無意識が世界を版にする」

Prints by ARAI Yoshinori

2021(令和3)年1月9日(土)～3月31日(水)



1970年代より旭川を拠点に活動してきた現代美術家・荒井善則。その中心的な仕事である版画作品の数々を、当館が新たに収蔵した作品とともに紹介します。

【アーティスト・トーク】

日時/1月9日(土)午後2時～(約60分)
講師/荒井善則氏(美術家)
会場/当館第2展示室(要観覧券)

[Soft Landing to Season 2018] 2018(平成30)年 当館蔵

観覧料:一般260(210)円、高大生150(110)円

* ()内は10名以上の団体料金。中学生以下および65歳以上の方などは無料。土曜日は高校生無料。



交通案内

- 徒歩: JR旭川駅から約20分。
- バス: JR旭川駅北側の1条通の14番バス停(1条8丁目)から3・13・23・24・33・35番のバスに乗り。最寄りのバス停は(4条4丁目)(3・33・35番)、徒歩5分。または(8条西1丁目)(13・23・24番)、徒歩3分。また、(常磐公園前)を経由するバスもご利用いただけます。バス停から徒歩7分。
- タクシー: JR旭川駅前から約10分。800円程度。
- 駐車場: 常磐公園駐車場(無料/午前9時～午後5時)をご利用いただけますが、台数に限りがあります。

北海道立旭川美術館

Hokkaido Asahikawa Museum of Art

〒070-0044 旭川市常磐公園内

TEL0166-25-2577

<http://www.dokyojyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/abj/top.htm>

<http://www.dokyojyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/abj/top.htm>

@Asahikawa_Art



4-2 所蔵品展

Amazing Woodcrafts 椅子と箱の世界

Amazing Woodcrafts:Chairs and Boxes

旭川美術館が誇る多様な「木の造形」の作品のなかから、驚くような創意と工夫が凝らされた椅子と箱の名品を紹介した。緊急事態宣言の発令により会期中に休館をしたため開館日数は38日となり、延べ観覧者数は280名であった。

なお本展より、北海道庁インターネット放送局「Hokkai・Do・画」(Youtube)を通じて展覧会を動画で紹介する「北海道リモート・ミュージアム」の取り組みを開始した。

会 期：4月4日(土)～6月28日(日)

※4月7日開会予定を前倒しして開会

※4月25日～5月25日は国による緊急事態宣言発令のため休館、休会

主 催：北海道立旭川美術館

■主な新聞記事等

北海道新聞 4/5 5/22 5/27

北海道通信 4/8 4/9

■動画配信

北海道リモート・ミュージアム(「Hokkai・Do・画」)

「Amazing Woodcrafts 椅子と箱の世界」

公 開 日：5月19日

再生時間：3分19秒

視聴回数：1,361回(R4.3/6現在)

旭川ゆかりのアーティスト

Contemporary Artists from Asahikawa

旭川で最初の美術団体・ヌタックカムシュッペ画会ができたのは1918(大正7)年、それから100年あまり、旭川の地は、さまざまな美術家を輩出してきた。本展では、旭川で生まれ育った、あるいは、現在、旭

川在住の現役作家の絵画と彫刻をご紹介した。ほとんどの作家が旭川及び近郊在住だったこともあり、作家によるトークを数多く実施するなどし、45日間の会期で2,569人が来場した。

会 期：7月11日(土)～8月30日(日)

主 催：北海道立旭川美術館

■関連事業

[アーティスト・トーク]

会 場：第2展示室

(自由参加、要観覧券)



8月1日(土) 午後2時～(約60分)

講 師：高橋三加子氏(油彩画家)、藤井忠行氏(美術家)

参加人数：20名



8月2日(日) 午後2時～(約60分)

講 師：寺田栄氏(彫刻家)、山谷圭司氏(彫刻家)

参加人数：29名



8月15日(土) 午後2時～(約60分)

講 師：荒井善則氏(美術家)、末武英一氏(版画家)

参加人数：35名



8月16日(日) 午後2時～(約60分)

講 師：あべ弘士氏(絵本作家)、佐藤道雄氏(油彩画家)

参加人数：37名

■主な新聞記事等

北海道新聞 8/11 8/19

北海道通信 7/16 7/30 7/10

旭美、この一点—黒田辰秋《神代櫨彫文飾棚》

A Masterpiece from the Hokkaido Asahikawa Museum of Art: KURODA Tatsuaki's *Cabinet of Zelkova Wood*

当館を代表する所蔵作品の一つ、黒田辰秋《神代櫛彫文飾棚》(1974年)は作家が自宅で愛用していたという逸品。本作を制作した重要無形文化財保持者の黒田辰秋(1904-1982)が参加した民藝運動について紹介するとともに、その影響を受けた工芸作品などあわせて約40点を展示した。関連事業として欠けた器を直す金継ぎ講座を実施するなどし、会期中1,891人が来場した。

会 期：9月12日(土)～11月1日(日)

主 催：北海道立旭川美術館

■関連事業

[欠けた器を直す金継ぎ講座(3日間コース)]

講 師：堀内亜理子氏(漆作家)

会 場：講堂

(申込制、参加費5,000円)



10月14日(水)

参加人数：午前(11時～12時15分)6名 / 午後(1時～3時15分)3名



10月21日(水)

参加人数：午前(11時～12時15分)6名 / 午後(1時～3時15分)4名



10月28日(水)

参加人数：午前(11時～12時15分)6名 / 午後(1時～3時15分)4名

■主な新聞記事等

北海道通信 9/18

荒井善則展 無意識が世界を版にする

Prints by ARAI Yoshinori

1970年代より旭川を拠点に活動してきた美術家・荒井善則。その中心的な仕事である版画作品の数々を、当館が新たに収蔵した荒井の作品とともに展示した。また荒井が参加した1970年代後半から80年代半ば頃にかけての美術運動に関する資料も展示し、旭川における現代美術の黎明期の様子を紹介した。荒井本人によるアーティスト・トークも実施し、70日間の会期で1,614人を迎えた。

会 期：1月9日(土)～3月31日(水)

主 催：北海道立旭川美術館

■関連事業

[アーティスト・トーク]

会 場：ロビー、第2展示室

(定員30名、要事前申込、要観覧券)



2月6日(土) 午後2時～(約60分)

講 師：荒井善則氏(美術家・元北海道東海大学教授)

聞 き 手：門間仁史(主任学芸員)

参加人数：20名



3月27日(土) 午後2時～(約60分)

講 師：荒井善則氏(美術家・東海大学名誉教授)

聞 き 手：門間仁史(主任学芸員)

参加人数：27名

■主な新聞記事等

北海道新聞 1/19 3/19

あさひかわ新聞 1/5

北海道通信 1/19 3/2

■動画配信

北海道リモート・ミュージアム(「Hokkai・Do・画」)

「荒井善則展 無意識が世界を版にする」

公 開 日：3月16日

再生時間：4分7秒

視聴回数：832回(R4.2/18現在)

Amazing Woodcrafts 椅子と箱の世界 出品目録

No.	作家名	作品名	制作年	技法/材質	寸法(cm)	所蔵先
1	山田 克巳	イーグル・チェアー	1983	ナラ、ローズ ウッド	80.0×36.0×40.0	
2	渡辺 昇	ジオ、ポンティの超軽量椅子に挑戦 する	1983	ミズナラ、マカ バ、トウ	83.0×40.0×47.0	
3	吉田 幸男	神秘	1983	ニレ(埋もれ木)	92.5×90.0×46.0	
4	清水 潤	トペニ	1983	イタヤカエデ	130.0×69.0×36.0	
5	田野 雅三(デザ イン) 守谷 孝子(デザ イン) (株)匠工芸(制作)	ボルボ	1996	ナラ、牛革、< ウレタン塗装仕 上げ>	81.0×72.0×66.0	
6	横田 哲郎(デザ イン) (株)インテリアナス (制作)	シーブ、チェア	デザイン2008 制作2011	ナラ、一部成形 合板<オイル塗 装仕上げ、ワッ クス塗装仕上げ >	69.1×69.0×54.0	
7	矢萩 喜従郎(デ ザイン) (株)カンディハウス (制作)	WHY NOT? BALLOON	2007	メープル	78.5×69.5×59.5	
8	中井 啓二郎	ワーキング、ストゥール	1983	クルミ、カバ、 ローズウッド	66.0×30.0× 30.0、 57.0×30.0×30.0	
9	高橋 三太郎	AFRICAN PADAUK	1983	アフリカンパ ドック、ナラ	40.0×42.0×76.0	
10	三上 純	THE HEXAHEDRON	1983	カバ、<クリ アラーッカー塗 装>	45.0×45.0×45.0	
11	ステューレ、エン グ(デザイン) 服部勇二(制作) (株)匠工芸(制作)	君の椅子2019	2019	ミズナラ	41.0×32.5×26.0	
12	川上 元美(デザ イン) 服部 勇二(制作) (株)匠工芸(制作)	君の椅子2018	2018	ミズナラ	31.0×35.0×46.0	
13	中村 昇(デザイ ン) 服部 勇二(制作) (株)匠工芸(制作)	君の椅子2017	2017	ミズナラ	35.0×32.0×29.5	
14	小林 幹也(デザ イン) 鳥羽山 聡(制作) (株)匠工芸(制作)	君の椅子2016	2016	ミズナラ	41.0×34.0×29.0	
15	中村 好文(デザ イン) 大門 和真(制作) (株)匠工芸(制作)	君の椅子2015	2015	ミズナラ	36.5×31.5×27.0	
16	谷 進一郎(デザ イン) 菊地 聖(制作) (株)匠工芸(制作)	君の椅子2014	2014	ミズナラ	34.0×28.5×26.5	
17	藤井 忠行	椅子	1983	クルミ、エン ジュ	50.0×115.5× 142.0	
18	三澤 憲司	樹からぬかれた木箱	1992	米松	110.0×120.0× 60.0	
19	デイヴィッド・ ナッシュ	ブナとカエデのクラッキングボック ス	1989	ブナ、カエデ	(各)60.0×59.0× 59.0	
20	近江 栄蔵	きりため(切溜)	1981	スギ	35.0×50.0	

21	中井 啓二郎／丹野 則雄	木靴(KIBAN)	1981	クルミ、コルク、ローズウッド、革ひも	31.5×24.5×41.0
22	和田 伊三郎	桐亀甲寄木二輪管	1981	キリ	16.0×50.0
23	須田 賢司	GORON! I	1981	タモ、キリ	15.0×25.0×15.0
24	須田 賢司	GORON! II	1981	タモ、チーク、ひも、荷札	15.0×40.0×15.0
25	大門 巖	き、に、なる、箱	1992	指物、クルミ、シナ、アフリカンパドック、ピッチパイプ、ウレタンオイル塗装(内箱)、白木用ウレタン塗装(外箱)	24.0×40.0×30.0
26	中村 錦平	昔、人はハコを木で造っていたらしい	1992	(左)薄板(経木)／(中央)カンナくず／(右)割り箸、プラスチック	(各)17.0×17.0×17.0
27	戸村 浩	木の星 Jupiter	1987	ニヤトー、<ニス塗装>	φ23.4
28	八田 頼明	むすびの箱(男)	1981	ケヤキ	23.8×22.0×22.0
29	八田 頼明	むすびの箱(女)	1981	キリ	16.0×22.0×22.0
30	時松 辰夫	レースの箱	1981	アカマツ、ポリマー処理、ポリウレタン塗装	20.0×40.0×40.0
31	渡邊 久志	ジャングル、ジム	1992	ナラ、カリン、<リンシードオイル塗装>	39.6×39.6×39.6
32	山中 成夫	清水型箱入組木細工	1981	シウリザクラ<外部>、カキ<箱部>	23.0×23.0×23.0

※作品はすべて当館蔵

※寸法は平面作品では縦×横、立体作品では高さ×幅×奥行、あるいは高さ×径

旭川ゆかりのアーティスト 出品目録

1	板津 邦夫	仮面	1979	マカバ	81.3×56.0×18.9
2	板津 邦夫	近文の少女	1961	ブロンズ	44.5×25.0×26.5
3	神田 比呂子	Y. MAYA嬢	1990	テラコッタ	84.0×47.0×67.0
4	神田 一明	窓のある室内	1981	油彩、キャンバス	187.0×227.0
5	高橋 三加子	ひとたち I	1983	油彩、キャンバス	195.8 ×162.0
6	福井 爽人	白い風	2009	紙本彩色	220.0×180.0
7	遠藤 享	SPACE&SPACE<CAN AND APPLE>	1982	リトグラフ、紙	45.0×45.0
8	遠藤 享	SPACE&SPACE<EGG AND EYE>	1983	リトグラフ、紙	45.0×45.0
9	遠藤 享	SPACE&SPACE/NATURE-0605	2006	オフセットリトグラフ、紙 *	75.0×55.0
10	遠藤 享	SPACE&SPACE/NATURE-0704	2007	オフセットリトグラフ、紙 *	75.0×55.0
11	遠藤 享	SPACE&SPACE/NATURE-1003	2010	オフセットリトグラフ、紙 *	55.0×75.0

12	遠藤 享	SPACE&SPACE N1403	2014	オフセットリト グラフ、紙 *	46.5×31.0
13	遠藤 享	SPACE&SPACE N1406	2015	オフセットリト グラフ、紙 *	60.0×40.0
14	遠藤 享	SPACE&SPACE NATURE-0804	2008	オフセットリト グラフ、紙 *	75.0×55.0
15	遠藤 享	SPACE&SPACE N1503	2015	オフセットリト グラフ、紙 *	
16	末武 英一	残像一道	1983	シルクスクリー ン、紙	75.0×75.0
17	末武 英一	Blue Silhouette 89-0592	1989	シルクスクリー ン、塩化ビニ ール板	91.0×134.0
18	百瀬 寿	Square—Pink to Yellow	1979	シルクスクリー ン、紙	70.0×70.0
19	百瀬 寿	Square—Reverse Clear to Metallic Yellow	1981	シルクスクリー ン、紙	70.0×70.0
20	百瀬 寿	NE. Blue to Black	2015	アクリル、和紙 *	120.0×120.0
21	荒井 善則	Soft Landing to Season2013	2013	シルクスクリー ン、モノタイプ プリント、紙 *	81.0×149.0
22	佐藤 道雄	夏樹	1983	油彩、キャンバ ス	130.0×162.1
23	盛本 学史	チグリス	2000	油彩、キャンバ ス	91.0×72.5
24	あべ 弘士	『エゾオオカミ物語』絵本原画	2008	グワッシュ、ク レヨン、紙	26.5×30.5
25	寺田 栄	石走る	2003	白御影石	60.0×37.0×30.0
26	藤井 忠行	知楯	2020	花崗岩	97.0×25.0×16.0
27	藤井 忠行	椅子	1983	クルミ、エン ジュ	142.0×50.0× 115.0
28	山谷 圭司	一本足の直方体	1993	安山岩	33.0×52.0×58.0
29	山谷 圭司	残された形—世界柱II	1997	安山岩	50.0×24.5×28.5

NO. 26は作家蔵、他はすべて当館蔵

* 令和元度新収蔵品

※寸法は平面作品では縦×横、立体作品では高さ×幅×奥行、あるいは高さ×径

旭美、この一点—黒田辰秋《神代樺彫文飾棚》 出品目録

1	黒田 辰秋	神代樺彫文飾棚	1974(昭和49)	ケヤキ(埋もれ木)	148.0×44.0×91.0	北海道立旭川美術館
2		『白樺』11巻8号	1920(大正9)			北海道立文学館
3		『白樺』13巻12号	1922(大正11)			
4		『工藝』106号	1942(昭和17)			北海道立文学館
5		『工藝』107号	1942(昭和17)			
6	ウィリアム・ブレ イク	『ヨブ記』第10図	1823	エングレーヴィ ング、紙	19.5×15.0	北海道立近代美術館
7	ウィリアム・ブレ イク	『ヨブ記』第12図	1823	エングレーヴィ ング、紙	19.8×15.0	北海道立近代美術館
8	ウィリアム・ブレ イク	『ヨブ記』第16図	1823	エングレーヴィ ング、紙	18.6×14.7	北海道立近代美術館
9	ウィリアム・ブレ イク	『神曲』	1827	エングレーヴィ ング、紙	27.5×35.2	北海道立近代美術館
10	河井 寛次郎	呉須辰砂花文扁壺		陶磁	18.6×11.8×21.0	北海道立近代美術館
11	棟方 志功	砂山の柵	1982、1969(昭 和44)摺	木版、紙	20.0×115.0	北海道立旭川美術館

12	棟方 志功	肉筆画(題不詳)	1948(昭和23)	彩色、紙		個人蔵
13	棟方 志功	『鯉雨』	1948(昭和23) 刊行	木版、彩色、紙	16.0×11.7	北海道立近代美術館
14	棟方 志功	『白と黒』第一第一号	1937(昭和12)	木版、紙	14.0×11.3	北海道立近代美術館
15	棟方 志功	『白と黒』第一第三号	1937(昭和12)	木版、紙	14.0×11.3	北海道立近代美術館
16	棟方 志功	『白と黒』第一第四号	1937(昭和12)	木版、紙	15.5×13.3	北海道立近代美術館
17	棟方 志功	『白と黒』第一第五号	1937(昭和12)	木版、紙	4.9×14.3	北海道立近代美術館
18	棟方 志功	『善知鳥版画巻』夜訪の柵	1938(昭和13)	木版、紙	31.0×32.0	北海道立近代美術館
19	芹沢 銈介	『中国忍者伝 十三妹挿絵集』(1)	1965(昭和 40)、刊行： 1986(昭和61)	型染、紙	14.0×17.0(書籍サ イズ：27.3×29.4 ×1.4)	北海道立近代美術館
20	芹沢 銈介	『新版 絵本どんきほうて』西国ら まんちやの里のどんきほうて	1976(昭和51)	型染、紙	22.1×29.0(書籍サ イズ：40.5×36.5 ×1.3)	北海道立近代美術館
21	芹沢 銈介	旭川、梅鳳堂マッチラベル		型染、紙		
22	バーナード・リー チ	水差し		陶磁	11.1×9.7×11.0	北海道立近代美術館
23	バーナード・リー チ	灰壺		陶磁	10.5×8.2	北海道立近代美術館
24	バーナード・リー チ	掻き落とし壺		陶磁	15.5×26.7	北海道立近代美術館
25	バーナード・リー チ	蓋物		陶磁	22.2×15.8	北海道立近代美術館
26	バーナード・リー チ	大皿		陶磁	40.0×5.3	北海道立近代美術館
27	宮下 貞一郎	六角香合		陶磁	6.6×6.0×4.0	北海道立近代美術館
28	宮下 貞一郎	香合		陶磁	4.6×2.8	北海道立近代美術館
29	宮下 貞一郎	急須		陶磁	22.3×13.5×11.6	北海道立近代美術館
30	宮下 貞一郎	平茶碗		陶磁	15.2×5.3	北海道立近代美術館
31	宮下 貞一郎	面取八角草花文大瓶		陶磁	21.7×30.6	北海道立近代美術館
32	宮下 貞一郎	水指		陶磁	18.0×17.4	北海道立近代美術館
33	中臺 瑞真	桐手箱	1973(昭和48)	キリ	3.0×28.0×10.0	北海道立旭川美術館
34	横山 幹	神代樺造茶箱	1992(平成4)	ケヤキ(埋もれ 木)、スギ(埋も れ木)	13.0×14.5×21.5	北海道立旭川美術館
35	横山 幹	神代樺造色紙箱	1992(平成4)	ケヤキ(埋もれ 木)	7.0×32.0×36.0	北海道立旭川美術館
36	野嶋 峰男	樺拭漆手箱	1987(昭和62)	ケヤキ、拭漆	24.0×19.5×6.5	北海道立旭川美術館
37	野嶋 峰男	樺拭漆下駄箱	1987(昭和62)	ケヤキ、拭漆	17.0×22.3×9.3	北海道立旭川美術館
38	須田 桑翠	黒柿小箆筒	1979(昭和54)	クロガキ、クワ	16.5×16.0×20.0	北海道立旭川美術館
39	小西 清	からくり小猿四方木口箱	1981(昭和56)	ローズウッド、 オイルフィニッ シュ	18.0×12.0×5.0	北海道立旭川美術館
40	小西 清	八角箱膳	1981(昭和56)	ケヤキ、拭漆、 金属	60.0×60.0×27.0	北海道立旭川美術館

※寸法は平面作品では縦×横、立体作品では高さ×幅×奥行、あるいは高さ×径

荒井善則展 無意識が世界を版にする 出品目録

1	麗郷(老)哀しみをおおうことに救め る大地の中に	1971	紙、水彩絵具、 ペン	作家蔵
2	麗郷(参)流れから来出て知りたるも のは純を見つめる眼とは遠からじ	1971	紙、水彩絵具、 ペン	作家蔵

3	水曜日の声—白昼	1972	紙、水彩絵具、 ペン	71.2×39.5	作家蔵
4	天女の舞	1972	紙、水彩絵具、 ペン	79.2×39.7	作家蔵
5	小島廣志 レディ(欧州旅行)	1987	リトグラフ/ 紙、インク	47.5×60.0	個人蔵
6	小島廣志 八月	1981	木彫/木	78.0×21.0×17.5	個人蔵
7	小島廣志 (題不明)	1996頃	リトグラフ/ 布、インク	24.0×23.5	個人蔵
8	紫色の空へ	1972	木版/紙、イン ク	16.3×16.9	作家蔵
9	安らぎとでも言おうか	1972	木版/紙、イン ク	24.6×16.8	作家蔵
10	DANAE	1974	エッチング/ 紙、インク	19.8×18.6	作家蔵
11	遷	1973	エッチング/ 紙、インク	37.8×31.8	作家蔵
12	痕跡-水の式	1979	エッチング/ 紙、インク	29.5×23.9	作家蔵
13	痕跡-風の壺	1980	エッチング/ 紙、インク	28.7×23.8	作家蔵
14	版+ONE	1981	モノタイプ/ 紙、布、インク	44.0×44.0	作家蔵
15	痕跡-木片による5	1983	モノタイプ/ 布、木片、イン ク	63.7×42.5	作家蔵
16	Traces of the Tape—Summer Time	1988	シルクスクリー ン/紙、インク	59.7×74.8	作家蔵
17	Traces of the Tape	1990	モノタイプ/ 布、墨、朱墨	90.0×90.0 10点組	当館蔵
18	Northern Field 3	1993	シルクスクリー ン/紙、インク	52.0×74.8	作家蔵
19	Northern Field 4	1993	シルクスクリー ン/紙、インク	52.0×74.8	作家蔵
20	On the Stone 1	1996	シルクスクリー ン/紙、インク	49.2×67.4	作家蔵
21	On the Stone 2	1996	シルクスクリー ン/紙、インク	49.2×67.4	作家蔵
22	From the Window 3	1996	シルクスクリー ン/紙、インク	66.0×44.7	作家蔵
23	From the Window 4	1996	シルクスクリー ン/紙、インク	66.0×44.7	作家蔵
24	From the Window 6	1996	シルクスクリー ン/紙、インク	66.0×44.7	作家蔵
25	Soft Landing to Season 1—1	1998	シルクスクリー ン/紙、インク	93.0×60.3	作家蔵
26	Soft Landing to Season 5	1998	シルクスクリー ン/紙、インク	93.0×60.3	作家蔵
27	Soft Landing to Season—12	1999	シルクスクリー ン/紙、インク	69.7×49.8	作家蔵
28	Soft Landing to Season	2002	シルクスクリー ン/紙、インク	48.5×80.0	作家蔵
29	Soft Landing to Season	2002	シルクスクリー ン/紙、インク	80.5×48.5	作家蔵
30	Soft Landing to Forest in Otoineppu	2008	シルクスクリー ン/紙、インク	59.3×59.3	作家蔵
31	Soft Landing to Season	2012	シルクスクリー ン/紙、インク	58.0×42.0	作家蔵

32	Soft Landing to Season 拾参番	2012	シルクスクリーン/布、インク	55.0×42.5	作家蔵
33	Soft Landing to Season	2012	シルクスクリーン/紙、インク	55.0×42.5	作家蔵
34	Soft Landing to Season	2014	ミクストメディア	51.1×39.6	作家蔵
35	Soft Landing to Season	2015	ミクストメディア	51.1×39.6	作家蔵
36	Soft Landing to Season	2015	ミクストメディア	51.1×39.6	作家蔵
37	Soft Landing to Season	2015	ミクストメディア	81.0×149.0	作家蔵
38	Soft Landing to Season	2013	シルクスクリーン、モノタイプ/紙、インク	54.6×72.8	当館蔵
39	Soft Landing to Season	2020	シルクスクリーン、モノタイプ/紙(特殊西洋紙)、インク	38.9×77.8	作家蔵
40	Soft Landing to Season	2020	シルクスクリーン、モノタイプ/紙、インク	75.7×56.9	作家蔵
41	Soft Landing to Season	2020	シルクスクリーン、モノタイプ/紙、インク	75.7×56.9	作家蔵
42	Soft Landing to Season	2020	シルクスクリーン、モノタイプ/紙、インク	75.7×56.9	作家蔵
43	Soft Landing to Season	2018	シルクスクリーン、モノタイプ/紙、インク	左右外 各60.0×80.3 左右内 各65.3×65.3 中央 99.9×33.3	当館蔵
44	「松ぼっくり」が実る大地 いずこ	2020	ミクストメディア		作家蔵
45	「薊」が咲く大地 いずこ	2020	ミクストメディア		作家蔵
46	「蟬」が啼く大地 いずこ	2020	ミクストメディア		作家蔵

※特に記載のない作品は荒井善則作

※寸法は平面作品では縦×横、立体作品では高さ×幅×奥行、あるいは高さ×径

資料

No.	資料名	発行・制作年
1	「九人展」ポスター(荒井の学生時代のグループ展ポスター)	1970
2	《遷》の原版	1973 制作：荒井善則
3	春陽展入選通知 出品者証 記念ポストカード	1973 発行：春陽会
4	アーティスト・ユニオン 北海道シンポジウム パンフレット	1986 発行：アーティスト・ユニオン 北海道シンポジウム実行委員会
5	美術館2ndロフト ポスター	1979 発行：美術館2ndロフト運営委員会 デザイン：下村朔郎
6	『表視ロフト』(美術館2ndロフト 記録誌)	1981 発行：美術館2ndロフト運営委員会
7	『ORGANIZATION ART LAB』Vo1.1~3 (アートラボ 会報)	1982 発行：アートラボ
8	『How To ORGANIZATION ART LAB』(アートラボ 広報パンフレット)	1982 発行：アートラボ
9	CIRCURATION' 85 パンフレット	1985 発行：サーキュレーション' 85実行委員会

10 『CIRCULATION' 85 資料』(CIRCULATION' 85 記録誌) 1996

発行：サーキュレーション'85実行委員会

映像

制作年

荒井善則制作記録 2020年11月10日(11分8秒)

2020

制作・編集：北海道立旭川美術館

4-3 貸館

第75回記念新ロマン派会員・会友展

The 75th Anniversary Exhibition of SHIN-ROMAN Art Association

会 期：4月7日(火)～4月12日(日)

主 催：新ロマン派美術協会

本展は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、主催者の申し出により開催中止となった。

5 教育普及事業

項目毎に、日時または期日、内容、講師、会場、聴講者または参加者数を記した。その他の場合は特記した。

(1) ワークショップ等

■工作アトリエ

休業期間中の小学生と保護者を対象に工作の機会を設け、子どもたちの美術や美術館への関心を高めるとともに、創作の楽しさを体験してもらった。



夏休み工作アトリエ「おうちでつくろう！絵本カバーのエコバッグ」

8月7日(金)～8月16日(日)午前9時30分～午後5時

会場：ロビー

参加者数：22人

(自由参加、参加無料)

■ウッディ★工作アトリエ 2021「木のおもちゃづくり」

講師：学芸員

会場：講堂、第1展示室、第2展示室

(募集制、参加料：レクリエーション保険料)



1月30日(土)午後1時～3時

参加者数：20人



31日(日)午前10時～12時

参加者数：19人

■展覧会関連事業

以下の事業を展覧会に関連して行った。詳細は各頁を参照。



講演会等 (p6、13、14、22)



アーティスト・トーク (p14、23、35、36、37)



上映会 (p14)



実技講座 (p36)



ワークショップ (p14)

(2) 連携事業

●学校教育との連携事業

小学校、中学校、大学との連携により、学校教育における美術館の活用促進を図った。

■出張アート教室

所蔵作品の有効利用を図るため、学芸員が学校に作品を持参し、児童・生徒に美術の楽しさを体験できる機会を提供した。

10月14日(水)

実施校：遠軽町立白滝中学校

講師：門間仁史(主任学芸員)

テーマ：「自画像」、「風景画」

作品：楓久雄《自画像》1947年、杉本カツヨシ《自画像》1946年、山口健智《画家の自画像》1964年、上野山清貢《パイプをくわえた男(自画像)》1952年、高坂和子《夏惜しむ》1987年、佐藤道雄《早春》1990年

参加人数：遠軽町立白滝中学校生 11人

■北海道教育大学旭川校連携ギャラリー・トーク

毎年度、北海道教育大学旭川校の教員を講師として招き、展覧会の内容や展示作品について、専門的な知見を交えて解説するギャラリー・トークを行っている。本年度は同校教授の南部正人氏(造形教育)と八重樫良二氏(デザイン)に依頼し、『「木」と「あそび」美術館』の会場で実施した。

参加人数：33人

■教員のための鑑賞研修

上川管内の小中高等学校ならびに特別支援学校の教員を対象に、学芸員による解説ツアーと鑑賞の機会を設け、児童生徒の鑑賞の推奨に役立ててもらうことをねらった。例年特別展毎に実施しているが、新型コロナウイルスの影響により2回行った。詳細は各展覧会関連事業の項目を参照。(募集制、参加無料)

計2回 16人

■北海道旭川農業高等学校の出張工作教室

木の持つ魅力を味覚以外の五感(聴覚、触覚、視覚、嗅覚)を使って感じてもらうため、「木とあそび美

術館」展展示中の北海道旭川農業高等学校のスロープトイの実演と木琴づくりのワークショップを開催した。

参加者数：42人

■旭川地域連携アートプロジェクト

例年、北海道教育大学旭川校（美術教育）・上川管内と旭川の中学校美術部顧問の教員・美術館（旭川市彫刻美術館、当館）の連携による鑑賞教育とワークショップを行っているが、新型コロナウイルスの影響により実施しなかった。

主 催：北海道立旭川美術館、上川旭川中学校美術部連携協議会、北海道教育大学旭川校、旭川地域連携アートプロジェクト

■キャンパス・パートナーシップ

道立美術館・博物館は大学等の教育機関と連携して芸術文化について学ぶ機会を拡充する「北海道立美術館・博物館キャンパス・パートナーシップ」制度を設けている。旭川では北海道教育大学旭川校及び北海道医学技術専門学校が参加した。

利用者数：36人

（3）ボランティア活動

昭和57（1982）年の開館時から、ボランティア常磐会によるボランティア活動が行われている。内容は喫茶「常磐の樹」ならびにミュージアムショップ（常設、特設）の運営。活動員数は約50名。

（4）協力事業

■小中学校の総合的な学習への対応

小中学校における総合的な学習のために美術館を活用したいという要請に対応した。

6 美術作品の収集

■令和2年度の作品収集について

当館は、地域の特色を生かしたコレクションづくりを目標とし、「道北の美術」と「木の造形」を作品収集の大きなテーマとしている。令和2年度は購入予算の措置はなされなかったが、個人所蔵家等から寄贈の申し入れを受け、油彩画、水彩画、木彫、版画、工芸の作品6点と資料1点の計7点を収集し、コレクションの充実を図ることができた。それらのうちの大半が、当館で開催した展覧会が受贈の契機となった点に特徴があった。

「道北の美術」に関わる作品としては、初期の旭川画壇で活動した関兵衛の油彩画と、旭川を代表する水彩画家・佐藤進の作品を受贈した。佐藤進の水彩画は、ご子息の佐藤道雄氏から借用した「北の水彩」展の重要な出品作品で、展覧会終了後に寄贈の申し出をいただいた。地元の作家に目を向け、正当に評価し、展覧会で広く紹介するという美術館の基本的な仕事が、コレクションの充実につながるという幸運な例であったと言える。

木彫と版画はいずれも「木の造形」に関わる作品であった。作者の小島廣志は1970年代に木彫で高く評価されて平櫛田中賞を受賞した作家であるが、後年は版画の制作に熱心に取り組んだ。旭川在住の美術家・荒井善則氏は学生時代に小島の薫陶を受けており、その関係を紹介した「荒井善則展 無意識が世界を版にする」を契機に、同氏より寄贈の申し出をいただいた。この受贈により、70年代の木彫界を検証する手がかりを得たことは、「木の造形」をコレクションの柱とする当館にとって意義深い。

さらに「木の造形」では、本年度も「君の椅子」を受贈した。「道北の美術」と「木の造形」の双方に関わり、当館のコレクションにおいても重要な位置を占める作品群となっている「君の椅子」は、本作をもって16点目となる。

資料もまた「木の造形」に関わるものであった。旭川出身の木彫家・砂澤ビッキによる書である。本資料は所蔵者が、砂澤の作品を多数展示した平成30年度開催の「Nature&Art 木をめぐる美術」展を機に寄贈の検討をはじめ、この度正式な申し出を受けたものである。砂澤の作品や資料は市井に多く眠ると見られる。展覧会での紹介や地道な調査を継続し、収集につなげることが肝要だろう。

これらの受贈により、総作品数は727点、資料126点となった。

■令和2年度作品収集状況

作品

分野	令和元年度末 作品収蔵数	令和元年度作品収集数			作品総数
		購入	受贈	合計	
油彩	169点(23.4%)	0点	1点	1点	170点(23.3%)
日本画	18 (2.5%)	0	0	0	18 (2.4%)
水彩・素描	168 (23.3%)	0	1	1	169 (23.2%)
書	0 (0.0%)	0	0	0	0 (0.0%)
版画	129 (17.9%)	0	2	2	131 (18.0%)
彫塑	142 (19.7%)	0	1	1	143 (19.7%)
工芸	93 (12.9%)	0	1	1	94 (12.9%)
写真	2 (0.3%)	0	0	0	2 (0.3%)
デザイン	0 (0.0%)	0	0	0	0 (0.0%)
合計	721 (100%)	0	6	6	727 (100%)

注) () 内の数字は、小数点第二位まで求め、四捨五入して記載した。

資料作品

分野	令和元年度末 資料作品収蔵数	令和元年度資料作品収集数			資料作品総数
		購入	受贈	合計	
油彩	1	0	0	0	1
日本画	0	0	0	0	0
水彩・素描	111	0	0	0	111
書	1	0	1	1	2
版画	4	0	0	0	4
彫塑	1	0	0	0	1
工芸	1	0	0	0	1
写真	0	0	0	0	0
デザイン	2	0	0	0	2
その他	4	0	0	0	4
合計	125	0	1	1	126

■令和2度作品収集一覧

受贈作品一覧

所蔵作品番号	分野	作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法
2020001	油彩	関兵衛	冬	1939 (昭和14)	油彩、板	縦38.0×横40.0 cm
2020002	水彩	佐藤進	北大構内	1939頃 (昭和14頃)	水彩、紙	縦38.0×横40.0 cm
2020003	版画	小島廣志	レディ(欧州旅行)	1987 (昭和62)	リトグラフ／紙、 インク	縦47.5×横60.0 cm
2020004	版画	小島廣志	(題不詳)	1996頃 (平成8頃)	リトグラフ／布、 インク	縦24.0×横23.5 cm
2020005	彫塑	小島廣志	八月	1981 (昭和56)	木	高78.0×幅21.0×奥 17.5cm
2020006	工芸	デザイン:五十嵐久枝 制作:大門巖,大門和真、(株)匠 工芸	君の椅子2020	2020 (令和2)	ミズナラ	高41.0×幅32.5×奥 26.0cm
シ00126	資料 (書)	砂澤ビッキ	樹は気 気は貴	1987 (昭和62)	墨、紙	縦27.0×横24.0 cm

作品目録

凡例

1. この目録には、令和2年4月1日から令和3年3月31日までに、北海道立旭川美術館に収蔵された作品を収録した。
2. 各作品は作者名によって次の通り分類した。
木の造形／道北の美術／北海道の美術／国内・海外の美術
3. 作者名は、各分類ごとに50音順に配列した。
4. 各作品のデータ記載事項と順序は次の通りである。
作家名、同英文、生没年、作品名、同英文、制作年、材質・技法、寸法、収集の経緯、所蔵番号。
5. データ記載事項のうち、該当事項のないものは表記を省略した。
6. 寸法は、センチメートルを単位とし、立体作品は高さ×幅×奥行の順に記載した。

道北の美術 Art of Northern Hokkaido



関 兵衛
SEKI Hyoe
1901(明治34)～1991(平成3)

冬
Winter

1939(昭和14)
油彩、板
38.0×40.0
山崎與吉氏より受贈
2020001



佐藤 進
SATO Susumu
1914(大正3)～1992(平成4)

北大構内
Hokkaido Imperial University's Campus

1939頃(昭和14頃)
水彩、紙
38.0×40.0
佐藤道雄氏より受贈
2020002



小島廣志
KOBATAKE Hiroshi
1935(昭和10)～1996(平成8)

レディ(欧州旅行)
Lady (during my trip to Europe)
1987(昭和62)
リトグラフ／紙、インク
47.5×60.0
荒井善則氏より受贈
2020003



小島廣志
KOBATAKE Hiroshi
1935(昭和10)～1996(平成8)

題不詳
Untitled
1996頃(平成8頃)
リトグラフ／布、インク
24.0×23.5
荒井善則氏より受贈
2020004



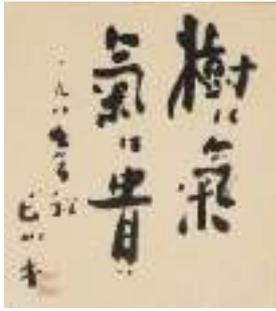
小島廣志
KOBATAKE Hiroshi
1935(昭和10)～1996(平成8)

八月
August
1981(昭和56)
木
78.0×21.0×17.5
荒井善則氏より受贈
2020005



デザイン:五十嵐久枝
制作::大門巖,大門和真、(株)匠工芸
Designed by IGARASHI Hisae, Made by DAIMON
Takeshi, DAIMON Kazuma and TAKUMI KOHGEI
Co., Ltd.
五十嵐／1964(昭和39)～ 巖／1953(昭和28)～ 和真／
1979(昭和54)～ 匠工芸／1979(昭和54)～

君の椅子2020
A Chair Just for You 2020: On-going Project to Make
Chairs for Newborns
2020(令和2)
ミズナラ
41.0×32.5×26.0
令和2年度君の椅子プロジェクトより受贈
2020006



砂澤ビッキ
SUNAZAWA Bikky
1931(昭和6)～1989(平成元)

樹は気 気は貴
Tree has a Spirit, Spirit is Precious
1987(昭和62)
墨、紙
27.0×24.0
大浦真理子氏より受贈
シ00126

7 美術作品の修復・貸出

(1) 美術作品の修復

令和2年度は実施なし。

(2) 美術作品の貸出

貸出先、作家・作品名、貸出期間、目的（会場）の順に記載した。

■本郷新記念札幌彫刻美術館

舟越桂 3点

《午後にはガンター・グローヴにいる》、《夜は夜に》、「夜は夜に」のためのドローイング》

令和2年7月21日（火）～令和2年10月6日（火）

「舟越桂～言葉の森～」展出品（本郷新記念札幌彫刻美術館）

会期：令和2年7月23日（木）～令和2年9月27日（日）

8 資料・情報

図書資料の収集

内訳	分類	令和元年度末	令和2年度	計
図書	A00	117	0	117
	A01	60	0	60
	A02	366	0	366
	A03	189	0	189
	A04	64	0	64
	A05	146	3 (1)	149
	A06	267	1 (1)	268
	A07	42	0	42
	A08	1,421	0	1,421
	A09	99	0	99
	A10	335	3 (2)	338
	A20	1,370	10 (10)	1,380
	A30	227	2 (2)	229
	A40	174	1 (1)	175
	A50	355	3	358
	A60	514	1	515
	000～900	711	4 (4)	715
	E	479	2 (2)	481
	CD	45	0	45
	DVD	15	0	15
VHS	4	0	4	
小計		7,000	30 (23)	7,030
資料[図録・古書雑誌等]		26,746	472 (441)	27,218
合計		33,746	502 (464)	34,248

* () 内は寄贈図書

図書分類表

分類記号	内容
A00	美術一般
A01	美術理論
A02	美術史
A03	書誌・辞典・便覧・名簿
A04	論文・講演集・美術評論
A05	年鑑
A06	美術館博物館・博物館学・保存修復
A07	美術教育
A08	美術全般の全集・叢書
A09	文化財・国宝
A10	彫刻・立体一般、日本彫刻・立体、東洋彫刻・立体、西洋彫刻・立体、彫刻・立体の材料・技法
A20	絵画一般、日本絵画、東洋絵画、西洋絵画、絵画の材料・技法、書蹟
A30	版画一般、日本版画、東洋版画、西洋版画、版画の材料・技法
A40	映像一般、映画、写真、映像機械・技法
A50	工芸一般、陶磁、ガラス、染織、木・漆工、金工(刀剣・鉄砲)、その他の工芸
A60	デザイン一般、グラフィックデザイン、インテリアデザイン、建築、その他のデザイン
000～900	一般図書(総記、哲学、歴史、社会科学、自然科学、技術・工学・工業、産業、芸術、言語、文学)
E	絵本
CD	CD-ROM
DVD	DVD
VHS	VHS

図書閲覧・刊行物

■図書閲覧

ロビーの図書コーナーに、開催中の展覧会に関連した書籍や図録等を配架し、閲覧に供した。その他の図書の閲覧希望や美術に関する質問には、随時対応した。

■刊行物

[令和3年度ミュージアムカレンダー(事業案内)]

縦 21.5×横 37.0 cm 四つ折り

OK マットコート 100 110 kg

両面カラー4色 50,000部 令和3年3月発行

デザイン：株式会社 20 パーセント

製 作：株式会社総北海



[令和元年度年報]

*当館ホームページにおいて公開



[旭川美術館だより『氷華』(No. 63)]

A4 縦 8頁(カラー8頁) ミューマット 90 kg

1,200部 令和3年3月発行

製 作：株式会社総北海

内 容：

展覧会報告「北の水彩」／佐藤由美加(学芸課長)

展覧会報告 「木」と「あそび」美術館／関口千代絵(学芸員)

展覧会報告 旭美・この一点／関口千代絵(学芸員)

展覧会報告 荒井善則展／門間仁史(主任学芸員)

道北の美術 28 遠藤享氏／佐藤由美加(学芸課長)

收藏品から 百瀬寿《NE.Blue to Black》／関口千代絵(学芸員)

*上記はすべて当館編集・発行。

*展覧会関係の広報印刷物、図録等については、各展覧会の頁を参照。

■特別観覧

当館所蔵の作品等や写真資料について、印刷物への掲載やインターネット上の公開を目的とした写真や画像データの借用希望、所蔵作品の熟覧、所蔵品展の会場撮影があった場合に、特別観覧として対応した。令和2年度は7件の特別観覧があった。

■ データベース

令和元年度までの収蔵作品ならびに資料作品について、データベース化を完了した。

■ インターネット上の情報提供

当館ホームページおよびツイッターにおいて、展覧会や教育普及事業等に関する情報を随時更新しながら提供した。（ホームページ <http://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/abj/top.htm>、ツイッター <https://twitter.com>） ※ホームページの URL は令和 2 年度時点のもの。令和 3 年 6 月からは新ホームページ（<https://artmuseum.pref.hokkaido.lg.jp/abj>）に移行しており、現在は閲覧不可。

9 利用者数一覧等

(1) 令和2年度 観覧者数一覧

展覧会名	開催要項 (開催日数)	観覧者数 (一日平均)	有料									無料	
			個人①				団体②/前売③				小計	免除 招待	
			一般	高大生	小中生	計	一般	高大生	小中生	計	①+②+③		
特別展	美術館に行こう！ディック・ブルー ナに学ぶモダン・アートの楽しみ方 (0 日)	0 (0 人)	0	0	/	0	0	0	/	0	0	0	0
	令和2年度国立美術館巡回展・京都国 立近代美術館所蔵品展 京の美術－洋画、日本画、工芸 (45 日)	3,726 (83 人)	1,678	41	14	1,733	532	13	45	590	2,323	1,403	
	北の水彩 (44 日)	3,314 (75 人)	1,390	41	11	1,442	503	13	45	561	2,003	1,311	
	「木」と「あそび」美術館 (70 日)	2,933 (42 人)	913	56	22	991	434	38	243	715	1,706	1,227	
	小計 (159 日)	9,973 (63 人)	3,981	138	47	4,166	1,469	64	333	1,866	6,032	3,941	
所蔵品展	Amazing Woodcrafts 椅子と 箱の世界 (38 日)	280 (7 人)	134	8	/	142	17	0	/	17	159	121	
	旭川ゆかりのアーティスト (45 日)	2,569 (57 人)	562	27	/	589	133	13	/	146	735	1,834	
	旭美・この一点－黒田辰秋 《神代櫻彫紋飾棚》 (44 日)	1,891 (43 人)	348	35	/	383	97	4	/	101	484	1,407	
	荒井善則展 無意識が世界 を版にする (70 日)	1,614 (23 人)	371	32	/	403	180	23	/	203	606	1,008	
	小計 (197 日)	6,354 (32 人)	1,415	102	/	1,517	427	40	/	467	1,984	4,370	
合 計	7 回 (356 日)	16,327 (46 人)	5,396	240	47	5,683	1,896	104	333	2,333	8,016	8,311	

※ 観覧者数（内訳）のうち、斜線欄の人数は、「無料（免除・招待）」に含む（内数）

(2) 令和2年度 教育普及事業実施状況・利用者数一覧

■教育普及事業実施状況

◆講演会等

展覧会名	タイトル・内容等	開催日	場所	講師名等	人数
北の水彩	「近代の水彩画と北海道」	9月12日(土)	講堂	新明英仁氏(市立小樽美術館長)	15
小計					15

◆解説等

関連展覧会	タイトル・内容等	開催日	場所	講師名等	人数
京の美術－洋画、日本画、工芸	30分でわかる！見どころ解説	8月8日(土)	講堂	門間仁史(主任学芸員)	17
		8月22日(土)			12
旭川ゆかりのアーティスト	アーティスト・トーク	8月1日(土)	第2展示室	高橋三加子氏(油彩画家) 藤井忠行氏(美術家)	20
		8月2日(日)		寺田栄氏(彫刻家) 山谷圭司氏(彫刻家)	29
		8月15日(土)		荒井善則氏(美術家) 末武英一氏(版画家)	35
		8月16日(日)		あべ弘士氏(絵本作家) 佐藤道雄氏(油彩画家)	37
北の水彩	アーティスト・トーク	9月19日(土)	第1展示室	石垣渉氏(水彩画家)	37
		9月26日(土)		高松秀人氏(水彩画家) 宮西隆生氏(水彩画家)	29
		10月10日(土)	講堂	佐藤由美加(学芸課長)	17
「木」と「あそび」美術館	30分でめぐる！ギャラリー・ツアー	10月25日(日)	第1展示室	佐藤道雄氏(油彩画家)	32
		2月12日(金)	第1展示室	関口千代絵(学芸員)	6
3月13日(土)	6				
3月14日(日)	5				
	アーティスト・トーク	3月20日(土)	第1展示室	中井啓二郎氏(木工作家) 丹野則雄氏(木工作家)	18
小計					300

◆オリエンテーション

事業名	内容	開催日	会場	講師名	人数等
団体オリエンテーション	予約団体への展覧会解説	特別展等の開催期間	講堂	各展覧会担当学芸員	8件 186人
小計					186

◆ワークショップ等

事業名	タイトル・内容等	開催日	場所	講師名等	人数
夏休み工作アトリエ	夏休み工作アトリエ「おうちでつくろう！絵本カバーのエコバッグ」	8月7日(金) ～16日(日)	ロビー	※自由参加で講師なし	22
ワークショップ	「カラフル魔法の折り染め飾り」～水彩の美しさ	10月4日 11:00	講堂	椎名澄子氏(旭川大学短期大学部幼児教育学科教授)	18
		11:45			10
		12:30			20
		13:15			11
実技講座	「欠けた器を直す金継ぎ講座」(3日間コース)	10月14日(水)	講堂	堀内亜理子氏(漆作家)	午前 6 午後 3
		10月21日(水)			午前 6 午後 4

		10月28日(水)			午前 6 午後 4
ウッディ★工作アトリエ	「親子で木のおもちゃづくり」	1月30日(土)	講堂 第1展示室	関口千代絵(学芸員)	20
		1月31日(日)	第2展示室		19
					小計 127

◆特別イベント

関連展覧会	タイトル・内容等	開催日	場所	講師名等	人数
北の水彩	上映会「石垣渉 水彩画作品 ができるまで」	9月20日(日)	講堂	—	15
					小計 15

◆学校教育との連携・協力事業

事業名等	タイトル・内容等	開催日	場所	講師名等	人数等
教員のための鑑賞研修	「北の水彩」	9月26日(土)	講堂	佐藤由美加(学芸課長)	10
	「木」と「あそび」美術館	1月23日(土)		関口千代絵(学芸員)	6
北海道旭川農業高等学校の出張 工作教室	「木」と「あそび」美術館	2月27日(土)	第1展示室、 講堂	小山靖之氏(北海道旭川農業高等学校教諭)、北海道旭川農業高等学校森林科学科森林資源活用班	午前 23 午後 19
出張アート教室	「自画像」、「風景画」	10月14日(水)	遠軽町立白滝 中学校	門間仁史(主任学芸員)	11
北海道教育大学旭川校連携ギャ ラリー・トーク	「木」と「あそび」美術館	1月23日(土)	第1展示室	南部正人氏(北海道教育大学旭川校教授/造形教育)	4
		2月13日(土)		八重樫良二氏(北海道教育大学旭川校教授/デザイン)	29
職場体験	学校からの依頼により、職場 体験学習として美術館での業 務を希望する生徒を受け入れ る。	10月29日(木)	講堂、 展示室、 ロビー他	当館職員	浜中町立霧多 布中学校 3年 生 5名
		10月30日(金)			小平町立小平 中学校 2年 生 4名
キャンパス・パートナーシップ	道立美術館・博物館が大学等 の教育機関と連携して芸術文 化について学ぶ機会を拡充す る。	通年			北海道教育大 学、北海道医 学技術専門学 校生延べ31名

小計 142

■事業利用者数一覧

事業名	回数	利用者数
講演会等	1	15
解説等	14	300
オリエンテーション	8	186
ワークショップ等	10	127
特別イベント	1	15
学校連携・協力事業	9	142
合計	43	785

(3) 令和2年度予算・名簿

【令和2年度予算額】

(単位:千円)

教育総務費		390
	美術館協議会運営費	286
	事務局運営費	104
社会教育費		130,172
	展覧会事業費	17,998
	直接支払分	13,498
	負担金	4,500
	教育普及活動費	264
	調査研究資料収集費	254
	親子ふれあい芸術体験事業費	74
	維持運営費	110,950
	事業運営費	632
合計		130,562

【北海道立旭川美術館協議会委員名簿】(令和3年3月31日現在)

区分	氏名	性別	所属団体等(任用時)	新任・再任の別
学校教育関係者	小野田 倫 久	男	幌加内町教育委員会	再任
	石 前 聖 香	女	旭川市立向陵小学校	新任
	◎ 福 家 尚	男	上川教育研修センター	新任
社会教育関係者	星 秀 隆	男	上川管内社会教育委員連絡協議会	再任
	藤 村 好 美	女	旭川美術館ボランティア常磐会	新任
	千 葉 幸 恵	女	朔北美術協会	新任
	彦 野 優 佳	女	画家	新任
学識経験者	○ 大 石 朋 生	男	北海道教育大学	再任
	村 中 一 徳	男	比布町	新任
家庭教育向上活動者	本 間 公 浩	男	旭川市PTA連合会	再任
公募	丹 野 佑 理	女	公募	新任
	福 田 詠 介	男	公募	新任

◎会長 ○副会長 任期:令和2年6月10日から令和4年6月9日まで

【北海道立旭川美術館職員名簿】(令和2年4月1日現在)

職名	氏名	発令年月日
館長(非常勤)	梶 浦 仁	平成30年4月1日
副館長兼総務課長	嶋 倉 一 寿	令和2年4月1日
主査	首 藤 謙 介	令和元年6月1日
主事	山 川 恭 佳	令和2年4月1日
学芸課長	佐 藤 由美加	平成30年4月1日
主任学芸員	門 間 仁 史	令和元年6月1日
学芸員	関 口 千代絵	平成30年10月1日
主事(非常勤)	野 澤 陽 子	平成元年4月1日
主事(非常勤)	成 田 孝 子	平成4年11月1日
主事(非常勤)	佐 野 裕 美	平成10年4月1日
主事(非常勤)	上 野 由記子	平成12年4月1日

(4) 沿革

- 1977(昭和52)年 7月 北海道発展計画(昭和53～62年)で公立美術館設置計画を策定
- 1979(昭和54)年 7月 道立地方美術館設置調査費を計上、道立地方美術館建設検討会発足
9月 道立地方美術館設置専門家会議発足
10月 北海道文化振興審議会に道立地方美術館設置構想を報告
11月 道立地方美術館設置基本構想を策定、第1号館を旭川市に内定
- 1980(昭和55)年 3月 道立旭川美術館(仮称)設計、建築費を計上
6月 道立旭川美術館(仮称)建築基本設計完了
8月 道立旭川美術館(仮称)建築実施設計完了
10月 道立旭川美術館(仮称)工事着工(10/17)
- 1981(昭和56)年 12月 道立旭川美術館(仮称)工事竣工(12/7 2,558㎡)
- 1982(昭和57)年 4月 北海道立美術館条例の一部改正(4/5 条例第17号)により、「北海道立旭川美術館」を設置
初代館長 秋山操
7月 美術館落成式・開館記念式典、一般公開(7/24)
- 1987(昭和62)年 6月 2代目館長 磯部保
7月 開館5周年記念(7/24)
- 1990(平成2)年 3月 第2収蔵庫増築工事竣工(154㎡)
9月 観覧者50万人(9/20)
- 1992(平成4)年 4月 3代目館長 高橋洋
11月 常設展示室工事竣工(241㎡)
開館10周年記念式典、常設展示室落成式、常設展示室一般公開(11/13)
- 1996(平成8)年 4月 4代目館長 飯島修
所蔵品展及び常設展の小・中・高校生の無料化実施
- 1998(平成10)年 8月 観覧者100万人達成(8/12)
- 2000(平成12)年 4月 5代目館長 佐藤武
- 2002(平成14)年 10月 開館20周年記念式典(10/26)
- 2004(平成16)年 4月 所蔵品展及び常設展の高校生有料化、ただし土曜日並びにこどもの日及び文化の日は無料
- 2006(平成18)年 4月 6代目館長 金丸浩一
7月 観覧者150万人達成(7/28)
- 2012(平成24)年 4月 7代目館長 菅沼肇
11月 観覧者250万人達成(11/2)
開館30周年記念式典(11/16)
- 2018(平成30)年 4月 8代目館長 梶浦仁

(5) 建築設備概要

■建築概要

位 置	旭川市常磐公園内
基 本 設 計	田上+北海道日建、建設共同企業体
実 施 設 計	田上+北海道日建、建設共同企業体
工 事 施 工	伊藤・盛永共同企業体
総 工 費	12億6千162万9千円
工 期	起工 昭和55年10月17日 竣工 昭和56年12月7日
敷 地 面 積	4,320㎡
建 築 面 積	3,127㎡
構 造 概 要	鉄筋コンクリート造（一部鉄骨鉄筋コンクリート造）
仕 上	外装： 外装 磁器タイル（3丁掛）張り 屋上 アスファルト防水のコンクリート コテ押工 内装： 床 磁器質タイル張り及び塩ビタイル張り （展示室 ゴムタイル張り） 壁 磁器タイル（ボード）張り、軽量鉄骨下地、石コウ ボードクロス張り 天井 岩綿吸音板張り（AEP）

■設備概要

[電気設備]		[機械設備]	
受 変 電 設 備	受電電圧 6KV 変圧器容量 450KVA	空 気 調 和 設 備	展示室 夏 24℃±1℃ 55%±3% 冬 23℃±1℃ 55%±3%
発 電 設 備	ディーゼル機関 59PS 3,000rpm 発電機 43KVA 3相交流	収 蔵 庫 及 び 展 示 ケ ー ス 内	年間22℃±1℃ 55%±3%
常 設 展 示 室	ディーゼル機関 42PS 3,000rpm 発電機 30KVA 3相交流	吸 収 式 冷 凍 機	冷／302,720Kcal/hr 暖／252,840Kcal/hr
動 力 設 備	消防用電力 排煙機18.5KW1台 消化ポンプ7.5KW1台 一般用電力 合計233.1KW47台	チ ラ ー 冷 凍 機	冷房専用時 冷／104,500kcal/hr 冷暖房時 冷／91,200kcal/hr 暖／12,500kcal/hr
常 設 展 示 室	消防用電力 排煙機7.5KW1台 一般用電力 合計286.35KW62台	チ ラ ー 冷 凍 機	95,000～106,000kcal/hr 冷房専用（空冷式）
電 灯 設 備	特別展示室 直管LEDランプ 高演色形 Ra95 4,000ケルビン ロビー 埋込形LEDダウンライト Ra85 3,000ケルビン 常設展示室 直管LEDランプ 高演色形 Ra95 4,000ケルビン 講堂 埋込形蛍光灯器具 200～400ルクス	低 圧 蒸 気 ボ イ ラ ー 空 気 調 和 器	643,000kcal/hr 特別展示室 1系統 常設展示室 1系統 第1収蔵庫 1系統 第2収蔵庫 1系統 展示ケース 1系統 講堂 1系統 ロビーホール 1系統
電 話 設 備	卸電話機 自動式	給 水 設 備	市水道使用（飲用水、雑用水、消火用水）
放 送 設 備	壁掛形防災アンブ 120W	消 火 設 備	屋内消火栓11カ所 ハロンガス消火設備（特別展示室、常設展示室 展示ケース、第1収蔵庫、第1収蔵庫前室、第2 収蔵庫）
テ レ ビ 共 聴 設 備	U.Vアンテナ各1組、ユニット5個		
火 災 報 知 設 備	P1級複合盤 50回路		
視 聴 覚 設 備	16mm映写設備 一式 スライド映写設備（テープ同調機構付）一式 ビデオプロジェクター 一式 VTR編集設備 一式 スライドボックス 一式		

(6) 利用案内

■開館時間

9:30～17:00(入場は 16:30 まで)

■休館日

月曜日(祝日または振替休日の時は開館、翌火曜日が休館)、年末年始(12月29日～1月3日)、展示替期間等。

■アクセス

徒 歩：JR 旭川駅から約 20 分。

バ ス：JR 旭川駅北側の 1 条通の 14 番バス停（1 条 8 丁目）から、3・13・23・24・33・35 番のバスに乗車。もよりのバス停は「4 条 4 丁目」（3・33・35 番）、徒歩 5 分。または「8 条西 1 丁目」（13・23・24 番）、徒歩 3 分。また、「常磐公園前」を経由するバスもご利用いただけます。バス停から徒歩 7 分。

タクシー：JR 旭川駅前から約 10 分。

駐 車 場：常磐公園駐車場(市営／無料／9:00～17:00)がご利用いただけますが、台数に限りがあります。